

東洋療法いいわて

会報第56号

第22回東洋療法推進大会 in 岩手

—特集号—

令和6年5月1日発行

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

《令和5年度活動 写真コーナー》



第1回生涯研修会・会場風景
(2023.6.4)



第1回生涯研修会・佐藤茂先生講演
(2023.6.4)



第1回生涯研修会・伊藤庸一先生講演
(2023.6.4)



東鍼連青森大会・佐々木実東鍼連会長挨拶
(2023.7.2)



東鍼連青森大会・学術発表者感謝状
(2023.7.2)



東鍼連青森大会・佐藤茂先生実技指導
(2023.7.2)



鍼灸マッサーヂフェア・菊地弘先生
(2023.8.6)



鍼灸マッサーヂフェア・館下正則先生
(2023.8.6)



鍼灸マッサージフェア・佐々木実先生
(2023.8.6)



鍼灸マッサージフェア・袖林正美先生
(2023.8.6)



「在籍55年間の思い出」を語る下佐前理事長
(2023.12.10)



「会員在籍50年表彰」下佐征昭氏
(2023.12.10)



「岩手県保健功労賞」佐々木実会長
(2023.12.10)



「厚生労働大臣表彰」千葉謙一氏
(2023.12.10)



第6回生涯研修会・高橋則夫先生講演
(2024.2.18)



第6回生涯研修会・地伏亭金目先生講演
(2024.2.18)

巻 頭 言



一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実

令和5年度も残すところ1週間余りとなりました。今年度を振り返りますと何と云っても10月の15、16日に「アートホテル盛岡」で行われました第22回東洋療法推進大会 in 岩手ということになるでしょう。大会はおかげさまをもちまして参加者も多く、内容も充実したものであったとの評価をいただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。今号ではその東洋療法推進大会 in 岩手の模様を特集号として組み込ませていただきました。

さて、今年度は5月にコロナが5類扱いとなり、県師会の活動もコロナ前同様の企画となりました。が、コロナ禍に始めた zoom を利用しての会議や研修会は費用の削減、研修履修者の増加に大きな力を発揮しており、今年度の生涯研修修了者は18人を数えました。

また、会員の長年にわたる活動が評価され、千葉謙一氏が社会福祉貢献事業により厚労省表彰を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。そして私、佐々木実が岩手県保健功労賞を受賞いたしました。

さて、次年度令和6年は7月7、8日に花巻市の松倉温泉「風の季(とき)」で東鍼連岩手大会が行われます。この会報が皆さんの元に届く頃は大会の具体的案も固まっていることと思います。大会成功に向けて皆様の一層のご協力をお願いして巻頭言といたします。

目次

令和5年度活動 写真コーナー

巻頭言	会長 佐々木 実	…	3
令和5年度活動報告			
総務部報告			
庶務日誌	総務部長 古舘吉弘	…	6
第1回理事会並びに第82回定時総会報告	総務部長 古舘吉弘	…	7
令和5年度第82回定時総会議事録	中渡智彦	…	7
各会議報告			
全鍼師会令和5年度定時総会報告	代議員 佐藤 明	…	9
全日本鍼灸マッサージ師連盟総会報告	佐藤 明	…	10
日本鍼灸マッサージ協同組合総代会報告	佐藤 明	…	10
全国師会長会議報告	会長 佐々木 実	…	11
東鍼連代議員会報告	代議員 古舘吉弘	…	12
東鍼連臨時代議員会報告	代議員 古舘吉弘	…	13
全鍼フェムテック委員会会議報告	佐々木 実	…	14
全鍼視覚障害委員会報告			
視覚障害委員会各県担当者会議と講演会参加報告	中渡智彦	…	14
第2回視覚障害委員会研修会報告	中渡智彦	…	15
第3回視覚障害委員会報告	中渡智彦	…	16
各部報告			
学術部報告			
第45回東北鍼灸マッサージ青森学術大会報告	学術部長 佐藤 明	…	17
令和5年度生涯研修会報告	学術部長 佐藤 明	…	18
組織強化部報告			
東鍼連組織強化部長会議報告	高坂徳一	…	20
保険部報告			
全国保険担当会議報告	保険部長 井口 力	…	21
東鍼連保険部長会議報告	保険部長 井口 力	…	22
事業部報告	事業部長 舘下正則	…	23
委員会報告			
健康づくり委員会報告			
全国地域包括ケア担当者会議報告	委員長 古水健吾	…	23
令和5年度健康づくり委員会活動報告	委員長 古水健吾	…	25
無免許対策委員会報告			
令和5年度無免許対策委員会活動報告	委員長 千田節雄	…	25
東鍼連青森大会学術臨床発表	佐藤 茂	…	26
各支部報告			
盛岡支部活動報告	支部長 佐藤 明	…	26
一関支部活動報告	支部長 舘下正則	…	28
奥州支部活動報告	支部長 千田節雄	…	29

大船渡支部活動報告	……………	支部長 古水健吾	…	29
二戸支部活動報告	……………	支部長 古舘吉弘	…	29
花北遠野支部活動報告	……………	支部長 高橋則夫	…	29
釜石宮古支部活動報告	……………	支部長 佐々木きみ子	…	29

第22回東洋療法推進大会 in 岩手特集

東洋療法推進大会 in 岩手 写真コーナー

東洋療法推進大会 in 岩手 大会プログラム

開会の挨拶 主催者代表挨拶	……………	全鍼師会会長代行 長嶺芳文	…	36
開催県 歓迎の言葉	……………	岩手県師会会長 佐々木 実	…	36
お祝いのビデオメッセージ	……………	岩手県知事 達増拓也	…	37
祝辞 盛岡市長	……………	盛岡市長 内舘 茂	…	37
お祝いのメッセージ	……………	財務大臣 鈴木俊一	…	38
ビデオメッセージ	……………	日本医師会会長 松本吉郎	…	38
祝電	……………	厚生労働大臣 武見敬三	…	39
ビデオメッセージ	……………	内閣府特命担当大臣 自見はなこ	…	40
開会式 閉会の言葉	……………	全鍼師会副会長 往田和章	…	40
閉会式 開催県挨拶	……………	岩手県師会長 佐々木 実	…	41
次期開催県挨拶	……………	徳島県師会長 高島弘和	…	42
閉会式 閉会の挨拶	……………	全鍼師会会長代行 長嶺芳文	…	42

東洋療法推進大会 in 岩手報告

実行委員参加報告	……………	副会長 佐藤 茂	…	42
東洋療法推進大会 in 岩手報告	……………	学術部長 佐藤 明	…	43
桜井記念視覚障害者のための手でみる博物館を見学して	…	中渡智彦	…	46
「みちのく通信 岩手の案内」	……………	会長 佐々木 実	…	47
みちのく通信 岩手の案内第1号	……………		…	47
みちのく通信 岩手の案内第2号	……………		…	47
みちのく通信 岩手の案内第3号	……………		…	48
みちのく通信 岩手の案内第4号	……………		…	49
みちのく通信 岩手の案内第5号	……………		…	50
みちのく通信 岩手の案内第6号	……………		…	51
みちのく通信 岩手の案内第7号	……………		…	51
みちのく通信 岩手の案内第8号	……………		…	52
みちのく通信 岩手の案内第9号	……………		…	53
全国から300人参集「あはき」の課題で意見交換	…	盛岡タイムス記事	…	54
盛岡ではり・きゅう普及へ大会	……………	岩手日報記事	…	54
編集後記	……………	広報部長 松下優子	…	55

奥 付

広 告

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会 令和5年度活動報告

総務部報告 庶務日誌

総務部長 古館吉弘

- 4月 4日 法人県民税納入。
- 4月12日 法人市民税納入。
- 4月19日 国保連審査員に井口力氏の推薦状を送る。
同日 協同組合総代人を協同組合に送る。
- 4月20日 東鍼連令和4年度第2回理事会に佐々木実会長出席。
- 4月22日、23日 東洋療法推進大会 in 岩手打ち合わせ。岩手から7人、全鍼から3人出席。
(アートホテル盛岡)
- 4月30日 第1回監査会並びに執行部会議開催。(オンライン)
- 5月13日 東鍼連学術委員会会議に佐藤明と佐々木実出席。
- 5月14日 第1回理事会並びに第82回定時総会開催。(アイーナ「811号室」)
- 5月28日 全鍼代議員総会、協同組合総代会、「あはき」連盟総会に佐々木実全鍼理事と佐藤明代議員が出席。(東京)
- 6月 2日 一般社団法人全国介護者連盟岩手支部設立総会に祝電を送る。
- 6月 3日 一般社団法人全国介護事業者連盟岩手県支部設立総会・記念講演に佐々木実会長他2名出席。(メトロポリタン盛岡)
- 6月 6日 東鍼連保険担当者会議。(オンライン)井口力保険部長と佐々木実参加。
- 6月10日 盛岡医療大学校長龍澤正美氏の死亡に際し弔電を送る。
- 6月18日 東鍼連第1回実行委員会。(zoom)
- 7月2日、3日 東鍼連青森大会12名参加。(八戸市グランドサンピア)
- 7月 5日 全鍼視覚障害委員会会議が夜7時から7時半までオンラインで開催され佐々木実会長出席。
- 7月 6日 全鍼視覚障害委員会第1回会議。中渡智彦と佐々木実出席。(zoom)
- 7月23日 第2回執行部会議開催。(オンライン)
- 8月 6日 はりきゅうマッサージフェア開催。(アイーナ)
- 8月24日 東鍼連学術委員会第1回会議。佐藤明と佐々木実出席。(zoom)
- 9月 4日 県議会選挙に当選した神寄浩之顧問と県知事達増拓也知事に祝電を送る。
- 10月15日・16日 東洋療法推進大会 in 岩手開催。(アートホテル盛岡)
- 11月 5日 第2回監査会並びに第2回理事会開催。(zoom)
- 11月11日 全鍼協同組合研修会に佐々木実出席。(zoom)
同日 全鍼保険担当者会議に井口力と佐々木実出席。(zoom)
- 11月12日 全鍼全国師会長会議に佐々木実会長出席。(東京)
- 11月15日 全国社会福祉大会(東京)で一関支部の千葉謙一氏「厚生労働大臣表彰社会福祉事業従事功労」を受賞。
- 11月16日 東鍼連学術委員会会議に佐藤明と佐々木実出席。(zoom)
- 11月21日 東鍼連保険部長会議に井口力と佐々木実出席。(zoom)
- 11月22日 岩手県保健功労賞授賞式にて佐々木実受賞。(エスポワールいわて)

- 11月27日 全鍼視覚障害委員会第2回研修会に当会より4名出席。(zoom)
11月29日 全鍼フェムテック委員会会議に櫻田美音代理で佐々木実出席。(zoom)
12月 5日 東鍼連第1回理事会開催。佐々木実、佐藤明、佐藤茂出席。(zoom)
令和6年1月21日 第3回執行部会議開催。(松倉温泉・風の季)
2月 4日 視覚障害関連団体協議会に佐々木会長出席。
2月23日 東鍼連臨時代議員会に佐々木実、古舘吉弘、佐藤明、佐藤茂出席。(zoom)
3月14日 盛岡医療大学卒業式に佐藤茂副会長が代理出席。(アートホテル盛岡)
3月17日 第3回理事会開催。(アイーナ)

尚、佐々木実会長が今年度より全鍼理事と、視覚障害委員会委員長として出席もしくはオンラインで出席されています。

- ・理事会5回。(4月、5月、6月、10月、3月)
- ・業務執行理事会8回。(7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、3月)
- ・総会(5月)、東洋療法推進大会(10月)、都道府県師会長会議(11月)、各1回。
- ・厚労省との定期協議1回。(3月)
- ・視覚障害委員会 zoom 会議3回。(6月、11月、1月)

次に、令和5年度の会員動向について。

- ・県師会の入会者4名、退会者4名。
- ・全鍼師会、入会者4名、退会者2名。
- ・県師会情報メール版は190回配信されています。

令和5年度第1回理事会並びに第82回定時総会報告

総務部長 古舘吉弘

コロナが2類から5類とインフルエンザ並みになり、いよいよイベントなどが開催されるようになりました。

岩手県師会として、例年のように定時総会と理事会を風薫るとは行きませんでした。5月14日に開催されました。

今回は、朝から曇りがちで場所によると雨が降ったりしたところがあり涼しく感じました。そんな中、アイーナ811号室において、第1回理事会と第82回定時総会が開催されることとなりました。

10時から30分間行われた理事会では令和5年度の事業や決算が承認されました。

理事会後 zoom の準備をして総会に入りました。

令和5年度第82回定時総会議事録

日 時 令和5年5月14日(日)

10時30分～12時20分

場 所 アイーナ811(ハイブリッド)

記録人 中渡智彦

記

開会に先立ち、古舘吉弘総務部長から会員数94名中36名の出席、委任状43名、欠席15名があり、定款第17条を満たしており定時総会が成立することが告げられた。

出席理事 代表理事佐々木実、以下理事、佐藤明、古舘吉弘、高橋則夫、井口力、中渡智彦、佐藤茂、松下優子、舘下正則、古水健吾、千田節雄、清水寛平、佐々木きみ子。

出席監事 朝橋正美、菊地弘。

議長と議事録記録人、議事録署名人は執行部一任を受け、出席理事より議長に古水健吾氏、議事録記録人に中渡智彦氏、議事録署名人には佐々木きみ子氏、高橋則夫氏が選任された。

議事

第1号議案 令和4年度会長会務報告(佐々木実会長)

- ・全鍼師会を初め、医師会、保険者、日視連、厚労省などが参加して広告制限についての協議が行われ、治療院の使い方について、「マッサージ治療院」、「鍼灸治療院」など持っている免許の一部が入っていれば看板に「治療院」と記載してもよいことになった。
- ・来年10月から紙の保険証を廃止して、マイナンバーカードを保険証として使うことが決まっているが、他人の情報が入っていたり、寝たきりの人がどのようにしてマイナンバーカードを取得するのかなど不安な材料も多い。また、病院にはマイナンバーを読み取る機械を無償で提供しているが、鍼灸マッサージで保険を取り扱う場合は、専用のアプリを無償で提供し、バージョンアップも国が行うことになった。また、個人のパソコンやスマホにアプリを入れることによりウィルスなどで情報が流出することもあるので、アプリだけを入れる専用のパソコン・スマホを国が補助することになりそうだ。視覚障害者が使いやすく音声に対応するために、厚労省が日視連に検証してもらっている。全鍼も検証できるよう要望している。
- ・東鍼連青森大会が7月2・3日、八戸市で現地集合で行われる。今まで10年に1度記念大会を行っていたが、これからは5年に1回とし、各県から1名ずつ東鍼連、またはそれぞれの会に功労のあった人を、東鍼連会長表彰することになった。毎年行っている臨床体験発表を5年間の中から優れている発表をしたと思われる人に学術特別表彰することになった(一人から二人)。東鍼連としてもなるべく多くの人を、頑張ってる人を表彰したいという考えである。

第2号議案 令和4年度各部事業報告と承認

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があり、全会一致で承認された。

第3号議案 令和4年度財務部収支決算報告並びに監査報告と承認

佐藤茂財務部長より、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの報告があり(別紙資料)、続いて監事から帳簿や領収書綴り等にも誤りがないことを認めるとの報告があった。

第3号議案は全会一致で承認された。

第4号議案 表彰規則一部改正について承認

岩手県師会では会員歴25年の人を会長表彰している。会に貢献した多くの人たちを表彰したいという考えから、会員歴50年の人を特別表彰してはどうかと会長より提案され、全会一致で承認された。

第5号議案 選挙管理委員任命について

古舘吉弘総務部長から今年度も引き続き、井出裕貴氏、村上直人氏、大澤睦子氏に選挙管理委員をお願いしたことが報告され、了承された。

第6号議案 令和5年度各部事業計画について

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、健康づくり委員会、無免許対策委員会より順次報告があった。

第7号議案 令和5年度財務部予算について

佐藤茂財務部長より令和5年度の予算書(収入、支出)の説明があった。

また、コロナの制限も緩和されたことにより事業も活発に行われることから、会費をコロナ前の13000円に戻したことが報告された。

- ・質問(及川清隆) 労災保険の加入状況はどのぐらいか？

- ・回答(佐々木会長) 加入状況は個人情報なのでよく分からないが、全国で273人加入している
躓いて転ぶなどちょっとした怪我でも1年に1万ちょっと収めただけで保険が
下りるので、ぜひ入って欲しい。

第8号議案 東洋療法推進大会 in 岩手開催の準備状況について

佐々木実会長より、当日は盛岡駅からアートホテル盛岡までの案内、ホテル内での視覚障害者の案内、大会終了後、手で見る博物館に希望者を誘導など協力してもらえるように呼びかけがあった。メイン講演は、菅万紀子先生になる予定。

第9号議案 令和6年度東鍼連岩手開催について

来年7月に東鍼連岩手大会を花巻で行う。事務局長を佐藤明氏、財務局長を佐藤茂氏、実行委員長を佐々木実氏に決定。

臨床体験発表のテーマは、「感染症に対する鍼灸マッサージケア」。

第10号議案 その他

1. 無資格対策で県師会作成の看板について

佐々木実会長より岩手県師会では無免許対策として、県民の皆さんに国家資格の免許を持っている治療院と分かるように「国家資格免許治療院 一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会制作」というラミネート版のプレートを作り、希望者には無償で配布して、見えやすいところに貼ってもらうよう提案し、了承された。

各会議報告

全鍼師会令和5年度定時総会報告

代議員 佐藤 明

令和5年5月28日(日)11時から15時、新宿区立産業会館3階研修室において、全鍼師会令和5年度定時総会が行われました。

廣野敏明副会長の司会進行により開始され、まず、定足数の確認では、全国の代議員数76名中、会場出席36名、オンライン出席35名、委任状5名で総会は成立しました。

そして、長嶺芳文副会長の開会宣言、伊藤久夫会長のあいさつがあり、議長、議事録記録人・署名人の選任を行い、前年度事業報告と決算報告及び監査報告は出席された代議員全員に承認されました。また、全鍼師会会館のエレベーターリニューアル工事のために銀行から1千万円借入をして10年で返済することも承認されました。さらに、入会金・会費規定を一部改正し、賛助会員・個人1万円、賛助会員・法人百万円ということも承認されました。

この中で、全国の会員数は、令和5年3月末で正会員6,033名、準会員656名の合計6,689名ということでした。

続いて、令和5年度事業計画の報告と予算計画も代議員全員の拍手で承認されました。

そして、今回は全鍼師会役員改選があるということで、全国の代議員へ郵便投票が事前に行われ、総会の会場で選挙管理委員による開票が行われた結果、立候補された理事全員の当選が発表され、岩手県師会佐々木実会長が理事に再選されました。そして、臨時理事会が開かれ伊藤久夫会長の再任が決まりました。

次の議題である地方提出議案については、七つの県師会から出され、会場並びにオンラインの代議員からの提案と質問に対して、本部役員が丁寧に答弁されていました。

今回話題となったのは、新たに6月1日から全鍼師会ライン公式アカウントを取得して全国の会員

に対してライン友だち登録をしてもらうことを呼びかけられました。これは、SNSを通じた会員へのきめ細やかな情報発信とそれによる会員減少対策、さらには新たな会員獲得に向けたツールとして活用したいということでした。

それから、マイナンバーカードと保険証一体化問題についての情報共有および、治療院窓口での保険証の読取り端末機器についての進捗状況なども本部から説明がありました。

そして、新しいキーワードであるフェムテック・健康経営ということにも触れられていましたが、この言葉については今後も耳に触れる機会が増えることになるでしょう。全鍼師会本部も鍼灸マッサージ業界としての関わり方を研究するそうですので、情報を収集し理解を深めていかなければなりません。

最後に、今年10月15・16日にアートホテル盛岡で開催される東洋療法推進大会 in 岩手について、岩手県師会佐々木会長から全国の代議員に向けて多数の参加の呼びかけがなされ、予定時間の15時には終了しました。

全日本鍼灸マッサージ師連盟総会報告

定時総会に引き続き、15時10分から連盟総会は開催されました。

開会宣言、会長あいさつ、正副議長の選任が行われました。

議事として、令和4年度活動報告と収支決算並びに監査報告は承認され、令和5年度運動方針及び収支予算案も全員の拍手で承認されました。

運動方針では、あはき業界として政治力の育成の活動を目的としている。政権与党との関係を維持しつつ、党派を超えて本連盟の理解と協力をいただける国会議員と良好な関係を築く努力をする。

今回は、定時総会の冒頭に参議院議員2名の先生からお祝いの挨拶をいただきました。また、2名の参議院議員から祝電がありました。

日本鍼灸マッサージ協同組合総代会報告

全鍼連盟総会に引き続き、15時50分から協同組合総代会が開催されました。

令和4年度の事業・活動報告と収支決算並びに監査報告は承認されました。その中で、共同購買事業全体の売り上げ額は474万円で、前年度より47万円増えた。これは、新たに取扱った富里スイカの売り上げによる押し上げ効果があったようです。

令和5年度の事業計画では、今年度もスイカ、桃、シャインマスカットを取り扱う予定であるが、協同組合ホームページからの注文を特に勧めたいとのことでした。

また、共済事業である、労災保険、110番補償制度、新保障制度、所得補償保険の加入促進を継続するなどの計画が出され承認されました。

最後に役員改選があり、新理事長に石川英樹氏(千葉県師会)が選任され、決意と抱負を述べられ、総代会は終了しました。

今年度から上記三つの会議は1日のスケジュールで行われることになりました。会場も貸会議室になり、会員の減少から経費節減も仕方なしということです。

時代の流れに寄り添いながら、ひとり一人が学・術・業の向上のために倦まず弛まず努力と精進を続けることが鍼灸マッサージ師の使命なのだろうと思います。以上です。

全国師会長会議報告

会長 佐々木 実

会議は11月12日(日)に東京の biz 新宿を会場にハイブリッドで行われました。伊藤会長もすい臓がんの重粒子線治療が一段落したとのことで出席しておられました。20キロ痩せたとのことです。が元気でお酒もタバコも吸っていました。

さて、会議は4師会が欠席でしたが滞りなく進み、11時から始まり予定より30分早い4時に終了いたしました。

会議の内容は、主に上半期の事業報告と財務状況、下半期の事業計画と財務予測。そして、地方提出議案についてです。主なる事項を箇条書きします。

- ・(総務) 会員数は昨年度末より100人減ったが、これまでと比べて減少率が鈍化してきている。岩手をはじめ8都県師会で増加に転じている所もある。勧誘活動に感謝したい。
- ・(災害対策) 各県窓口者が決まり、またブロックごとの担当者も決まった。(岩手は朝橋正美氏、東北ブロックは福島県の平栗竜也氏)
- ・(フェムテック委員会) 11月29日に担当者会議を開き今後の方針を決めて行きたい。治療に関するエビデンスを集め研修会を開いて受講者に認定書を出す方向である。
- (保険委員会) 来年の保険料金改訂に包括化は実現しない。マイナ保険証導入に関して施術管理者が登録出来る HP を11月20日に開設する予定(厚労省)。これは一昨日、音声パソコンでも操作可能かを検証してもらって大丈夫となったからだ(当会は視覚障害委員会長の佐々木実氏が実証)。来年3月頃のカードリーダーアプリ提供など、これから情報を随時発信して行きたい。
- ・(法制) ネットなどでの目に余る無免許広告は厚労省と連携して叩いているが、まだまだ不十分であると認識している。
- ・(視覚障害委員会) 音声 PC での zoom 操作法や東洋療法のオンデマンド視聴法のデモンストレーションをユーチューブに上げている。また、11月27日には zoom で全員参加型の ICT 関連の研修会を行う予定。
- ・(総務) 今年度の免許保有証申込数は240件だった。訪問や往療を行う人たちは是非携帯してほしい。
- ・(財務) 会員の減少で苦しくなっている。全鍼会館の1階を動物病院に貸して家賃収入を得ることとした。これで全鍼会館エレベータ工事のために銀行から借りた1200万円を10年で返していきたい。
- ・全鍼 LINE は参加者が1505人まで伸びている。これを武器に入会促進につなげて行きたい。
- ・東洋療法推進大会 in 岩手は参加者も多く、進行もスムーズでこれまでで一番良い大会であった。また、初めての試みであるお土産屋さんを会場前に設置するというのも大盛況であった。財務的にも参加者が多かったのもまずまずである。来年は9月29日(日)、30日(月)徳島市「グランビリオホテル」において行う。駅から徒歩20分だが、送迎バスを用意する。スタイルは今年と同じ形で分科会は設けない。
- ・(地方提出議案)

福島県 全鍼講師名簿を全鍼 HP だけでなく一般にも公表してほしい。

(答え) 講師の了承が必要だ。

健康づくりの認定を地方でもやってほしい。

(答え) 来年度から行いたい。

東京都師会 全鍼の HP に掲示板を設置して自由に書き込めるようにしてはどうか？

(答え) 誹謗中傷等の書き込みをどう扱うかなど検討してみたい。

- ・(協同組合) 一人親方でも入れるお得な労災保険に入ってほしい。
- ・(全鍼連盟) 自由民主党の月刊誌に全鍼のことが載った。議員に知ってもらいたいきっかけとなった。
- ・(会場からの要望) 保険の受領委任払いに健保連は二割しか加入していない。また、鍼灸と医科との併用を認めてもらうように議員に運動してほしい。

(答え) 努力する。そのためにも運動資金が必要なので協力してほしい。また、多種との連携が必要なので、各県単位でも医師はもちろん、看護師・介護士・薬剤師・ヘルパー等々連携を密にしていってほしい。

それにしても東京はものすごい人です！コロナが5類になったこともあり外国人もかなり多く、コロナ前より人出が多いような気がしました。帰りは人混みを避けようと東京駅ではなく上野駅から新幹線に乗ろうとしたのですが、上野駅もものすごい人でした。人の動きはコロナ前にすっかり戻った感じでした。

東鍼連代議員会報告

東鍼連青森大会通常代議員会報告

代議員 古舘吉弘

令和5年7月2日、3日にかけて、東鍼連大会が青森県八戸市の「グランドサンピア」を会場に開催された。二日間とも晴天に恵まれたが、思ったより暑くはなかった。

さて、2日の日の午前10時半より代議員会が始まり各県師会長をはじめ代議員並びにオブザーバーで新潟県師会の柁沢会長が出席した。

青森県師会の笹川隆人氏により開会の宣言が行われ、東鍼連会長(岩手県師会会長)佐々木実氏の挨拶があった。また、参加者の自己紹介も行われた。

「会長挨拶」

皆さん、おはようございます。本日は天気にも恵まれまして4年振りの現地開催ということになります。青森県師会の笹川会長初め、皆さんにはコロナ禍の中の開催でご苦労されたと思います。感謝申し上げます。

さて、コロナも5類ということになって、各団体でも行事や催しがコロナ前と同じように行われるようになりました。

今日はそれらを踏まえて、また、この秋に全鍼の東洋療法推進大会が岩手で開催されますが、そのことも含めて皆様に討議していただきたいと思います。よろしくお願いします。

笹川会長の進行で議事に入った。

1. 令和4年度事業報告
2. 令和4年度会計収支決算報告
3. 監査報告
4. 令和5年度事業計画案
5. 令和5年度収支予算案
6. 各県提出議題
7. その他

以上のような議案で行われた。

内容については、前もって資料が提出されていたためにほとんどはその場での承認を取ることで了解された。

その他では、山形の天童市と山形県師会で災害ボランティア協定を結んだことが報告された。

また、全鍼の災害対策の東北の窓口として福島県師会長の平栗氏が選ばれた。

その後、令和6年度の東鍼連大会が岩手で開催されることについて、代議員の古館より説明を行った。

テーマ 「賢治の里から鍼灸マッサージの理想郷を目指して！」

日時 令和6年7月7日～8日(日、月)

場所 花巻市松倉温泉「ホテル風の季」

会費 2万円

代議員会や各部会議は当日前までに zoom を使って行う。

記念講演 岩手医大の桜井先生を予定。

臨床発表テーマ「感染症後遺症に対する鍼灸マッサージケア」。

その他、全鍼会長の講演と宮沢賢治関連の講演を考えているということを報告した。

佐々木会長からは、10月15日～16日に開催される東洋療法推進大会 in 岩手について説明が行われた。

昼食を摂りながら、各部会議担当者からの報告があり、代議員会は終了した。久しぶりに対面での会議ということで、和やかな雰囲気であった。

東鍼連臨時代議員会報告

代議員 古館吉弘

会議は zoom で、令和6年2月23日午後7時から8時まで行われました。

佐々木東鍼連会長より、議題1については代議員会の決定が必要であることから臨時代議員会を招集したとの説明がありました。

議題は、

1. 赤門鍼灸マッサージ学科の短大昇格について
2. 学術委員会合同研修会について
3. その他

でした。

議題1については、赤門が今ある鍼灸夜間部、鍼灸マッサージ科、柔整科を廃止し、あらたに鍼灸手技療法短大を設置したい。ついては国への働きかけにご協力いただきたいというものでした。

(質問) 按摩マッサージ指圧科としないのは何故か？

(答え) 手技療法ということでマッサージだけでなく学習する科を作りたい。

(質問) 視覚障害者も入学でき、授業中もそれらの人への配慮は可能か？

(答え) 現在も弱視者が学んでいるが十分に配慮していく。

1号議案は、満場一致で承認されました。

2号議案は、令和6年8月4日に赤門学校で東鍼連学術委員会が赤門学校や看護短大との合同研修会を開く件についてでしたが、準備内容が紹介され、開催を全会一致で承認いたしました。

その他では、各県の現状や情報交換が行われ会議が終了いたしました。

全鍼フェムテック委員会会議報告

佐々木 実

今年から新しく全鍼で力を入れて活動しているフェムテック委員会の会議が、11月29日午後7時から9時まで zoom で行われました。岩手からは担当の櫻田未音さんが高熱のため出られないというので私が代理で参加いたしました。

まず、全鍼フェムテック委員会狩野委員長より「フェムテック」とはの説明と全鍼がこれに取り組む理由が話されました。

それによると、フェムテックとは女性特有の生理、妊娠、出産、更年期障害等々をよく理解した上ではき施術を行うプロジェクトを全鍼として作りたい。あはき学生は、女性が半数もいるのに社会で活躍している人は他の職業に比べ極端に少ない。その辺の問題にもメスを入れて行きたいというものでした。

具体的には、東洋療法推進大会 in 岩手でも講演して下さった菅先生を中心に、「あはき治療を受けてのアンケート」を患者にお願いし、また、施術者側もアンケートに答え、その蓄積であはきの有用性を政府や社会にアピールして行きたいということ。

次に、研修会を開催しフェムテック認定証を出し、積極的に女性の施術者開拓、さらには患者への周知に努めたいとのこと。

また、それらフェムテックを運営していくために寄付もお願いしたいとのことでした。アンケートは間もなく出き上がるので、会員の皆さんに是非協力してほしいとのことでした。これは患者さんにもお願いしなければならないので大変ですが、国も女性に特化した政策を考えているので今がチャンス。しかも大学教授の菅先生が先頭に立ってくれているので医学的見地からも政府や社会への影響力が大きい。

これらの説明の後、質疑応答が行われましたが、何しろ横文字が多いことや初めての取り組みなので戸惑いを隠せない人が多かったようです。会議は次回も zoom で会議を続けていくことを確認して終了しました。

全鍼視覚障害委員会報告

視覚障害委員会各県担当者会議と講演会参加報告

中渡智彦

7月5日夜7時から視覚障害委員会各県担当者会議がオンラインで行われ、25名の参加でした。

1. 視覚障害委員会から令和5年度の体制と企画内容が発表され、委員長に岩手県師会の佐々木実氏、委員に茨城県師会の仲澤進氏、栃木県師会の植木均也氏、各県から1名ずつ委員の構成となりました。

内容として、zoom による研修会・勉強会を3回予定しており、1回目は、7月5日手で見える博物館、川又若菜館長の講演、第2回目は、10月下旬頃ICT関連勉強会、第3回目は令和6年1月下旬。

治療院経営について(視覚障害者の治療院経営で工夫や成功している方々の講話)、その後 zoom での新年会を予定しています。

2. 質疑として、佐々木実氏より、全鍼のHPに視覚障害コーナーのリンクを設けてもらい、点字の資料や zoom などの研修会などの動画をアップして、見れるようにしたらどうかと提案に対し、全員賛成(この件について視覚障害委員会のメーリングリストに7月6日の全鍼の業務執

行理事会で提案し、了承されたことが報告されました。

青森県師会から「zoom の操作のデモを載せて欲しい」との質問に対し、委員長からは「パソコンのスクリーンリーダである pc-talker、iphone のボイスオーバーを使つての操作法の勉強会をしたい」との提案に対して、全員賛成しました。

また、「来年秋からとも言われているマイナンバーに保険証が紐づけられた場合のカード読み取りリーダが音声に対応しているかを検証して欲しい」という質問に対し、「厚労省から日視連に検証をお願いするという話があったが、全鍼でも検証できるようにして欲しいと業務執行理事会に要望する」と回答がありました。

また、「治療費のクレジット決済をしている方がおられたら、話を聞きたい」、「同行援護を使っている方がいたら、その内容をお聞きしたい」という意見に対し、「これらはメーリングリストを通して、情報交換するのが良いのでは」と回答され、了承されました

3. 手で見える博物館、川又若菜館長の講演会が7時半から行われ、54名の参加でした。

「手で見える博物館」初代館長の桜井政太郎は、高校生の時に訪れた博物館で、蛇の抜け殻を触ろうとしたら係員に怒られ、それをきっかけに盲学校の教員をする傍ら、触れることのできる物を自費で集め、自宅を改築して触れる博物館を作り、収集品は3千点にも及ぶそうです。桜井が病気となり、博物館を続けられなくなった後、桜井の同僚であった私の父が後を引き継ぎ、自分が館長を行うようになりました。博物館の理念は、「一触は百聞に如かず」です。例えば、軟体動物であるイカ、タコ、カタツムリの三つを出して、同じ種類でも違いがあることなどを知ってもらいます。

また、同じ縮尺模型の像やキリンを触ってもらい、それぞれの特徴を把握してもらうなどの工夫をしているそうです。

いくつかの質問に答えた後、10月16日の東洋療法推進大会 in 岩手終了後是非立ち寄って欲しいと呼びかけがあり、8時半頃に講演は終了しました。

第2回視覚障害委員会研修会報告

中渡智彦

11月27日(月)7時から8時35分まで、情報交換を兼ねた zoom 研修会が行われ、全国から39名が参加しました。

この4月から委員長が変わり、希望すれば誰でも参加できるようになったのもあり、去年から行われてる研修会の中で1番の参加者でした。

初めに、第22回東洋療法推進大会 in 岩手について、佐々木委員長より参加協力のお礼が述べられ、「現地参加約220名、zoom 参加98名。現地参加で見ると視覚障害者は59名の参加、点字使用者は28名でした。来年の徳島大会に向けて、視覚障害者の参加者が困らないように、現地での移動など心配りを主催者をお願いしていく」との報告がありました。

また、来年の大会は四国なので、高知システムに展示してもらえるようお願いできないかなどの意見も出されました。

次に、11月1日から3日まで、東京で行われたサイトワールドを見学した人から感想が述べられ、注目を浴びていたのは歩行支援機器。「あしらせ」は、靴に装着し、スマホにインストールした専用アプリと連動させて使用します。振動でルートを伝え、右に曲がる時には右足に振動して案内するそうです。改良を加え、来年発売予定とか。

一方、スマホの操作が苦手と言う人には、(株)ダイハツ工業から出されていたネックスピーカー型の先にカメラが付いた物で、4メートル先にある電柱や車・人・点字ブロックなど七つの障害物を

音声で教えてくれるというものです。

来年秋実施のマイナ保険証をめぐる、保険管理者のマイナポータルサイトへのアクセスが音声PCで可能であることの実証体験が委員長より話され、「問題は来年公開されるカードリーダーアプリが音声にどれだけ対応しているかだ。しっかりと見て行きたい」とのことでした。

そして、本日の研修会のメインである活字文書読み上げ機器の情報交換が1時間余りにわたって行われ、栃木県師会の植木委員よりその種類と使い勝手が報告されました。以前は、スキャナで読み込ませていたのが、現在はカメラを利用した読み上げ機器が主流となり、紙のセットやカメラの向け方に慣れが必要との意見が出されました。

最後に、「これからガラケーからスマホに移ろうとする場合、iPhoneが良いか、アンドロイドが良いかの意見が交わされ、用途にもよるがiPhoneを推薦するという事でまとまりました。

残りの時間では、参加者からの質問に千葉県師会の米井先生に専門的立場からお答えをいただきました。治療費のカード決済が、見えなくとも一部可能であることなどの情報が参加者よりもたらされ、とても有意義な会であったと思います。

次回は1月の末頃に「視覚障害者のあはき業と治療院経営について」というテーマで行ない、その後「zoom 新年会」を行うことを決め終了いたしました。

第3回視覚障害委員会報告

中渡智彦

1月31日(水)7時から8時半まで、zoom 研修会が行われ、全国から42名が参加しました。

今回は「ヘルスキーパーの現状と課題」というテーマで、筑波大学の近藤宏先生に話していただきました。

先生は、ヘルスキーパーとして働く人たちや、雇用している企業を対象としたアンケートを例にとりながら説明してくださいました。

ヘルスキーパーは、企業に勤める人たちの疲労改善や、健康維持を目的とした職業です。

視覚障害者あはき師のヘルスキーパーの人数は、1988年には196人、2003年には300人、2007年には400人、現在では500人を超えていると思われ、都市部で増え続けています。

雇用している企業としては、サービス業20.4%、情報通信業16.7%、金融保険業14.8%、卸売業・小売業9.3%となっています。

また、業務実態では、あん摩マッサージ指圧施術100%、はり施術33.3%、きゅう施術5.6%。あん摩マッサージ鍼灸以外の施術を行っている企業は4件であった。施術内容は、電気・温熱・光線療法16.7%が最も多く、次いでアロマセラピー11.1%となっているそうです。

今後、視覚障害者ヘルスキーパーを増やしていくためには、法定雇用率だけに頼るのではなく、あはきが疲労回復や健康維持に役立つというPRが必要。そのためには、ヘルスキーパーとしてのエビデンスが必要であると結ばれました。

講演後質問の時間が設けられ、施術時間はどれくらいか？に対して、凡そ30分というのが多いと回答されました。治療院と企業との契約はどれくらいあるのか？コロナ禍で辞めさせられた人も多いのか？に対して、治療院との契約は少ないが幾つかはあるようだ。コロナ禍で辞めさせられた人は少ないが、自分から辞めた人もいる。コロナの時はヘルスキーパー募集が止まったが、最近また出てきているとの回答でした。

ヘルスキーパーは、保健所への届け出は必要か。また、受けた人から代金を取っているのか？に対して、必要であるが、気がついていない企業もある。代金についてはまちまちで無料の所もある。取っていても低料金が多く、500円という所が多いと回答されました。

今後、都市部から地方へと進めて行くのに何が大事か？に対して、500人以上を雇用している企業へのアプローチが必要。あはきの有効性を訴えていくことも大事。そのためにはヘルスキーパーとしてのエビデンスが必要となると思うと回答されました。

今回の講演を聞いて、岩手ではヘルスキーパーとはあまりなじみはありませんが、都市部を中心に500人以上が働いてるとのこと、マッサージを主な業務と思ってましたが、鍼・灸、アロマセラピーなども行ってるのにはびっくりしました。ヘルスキーパーの現状を知らなかった僕にとって、とても勉強になった講演会となりました。

各部報告

学術部報告

第45回東北鍼灸マッサージ青森学術大会報告

学術部長 佐藤 明

令和5年7月2日・3日(日・月)、標記青森大会は、グランドサンピア八戸において開催されました。岩手県師会からは会員11名と付添1名が参加しました。

10時30分から、第75回東鍼連代議員会及び組織強化部、保険担当者、学術担当者会議が行われ、13時から18時迄、第45回東鍼連青森学術大会が開催されました。

大会テーマは「伝えよう、受け継ごう、東洋医学のあずましのこころ」でした。参加者は東北全体で60名ほどの参加者がいました。

はじめに、青森県師会里村冠基副会長の開会のことばに続き、青森県師会笹川隆人会長の歓迎のあいさつ、主催者を代表して佐々木実東鍼連会長から4年ぶりの対面式開催の喜びを語られたあいさつがあり大会は開始されました。

まず、学術臨床研究発表になり、テーマは「私の十八番(おはこ)」でした。発表は岩手県から時計回りの順番となり、本県代表の佐藤茂氏はトップの登場でした。演題である「不定愁訴(これに類似するものも含める)と鍼灸」の症例発表がありました。

臨床研究発表された6題は、発表者の研究内容も充実してよくまとめられていました。

発表終了後、佐々木実東鍼連会長から6名の発表者への講評があり、表彰式で6名に感謝状と記念品が贈られ臨床研究発表の部は終了しました。

続いて、今年は第45回の記念開催にあたり、東鍼連会長表彰として、各県から1名に感謝状と記念品が授与されることになり、岩手から松下優子さんはじめ各県1名に感謝状と記念品が授与されました。また、学術特別表彰として、宮城県の山田幹夫氏、山形県の菊池司氏の2名に対して感謝状と記念品が授与されました。

次に、特別講演は、地元八戸酒造株式会社専務の駒井秀介(こまいひでゆき)氏を講師に、演題は「地域と共に生きる～伝統と革新～」ということでお話を拝聴しました。

日本酒党としては大いに興味をそそるテーマであるため聞き入ってしまいました。中でも東北6県には酒蔵が230蔵あり、その内、青森には19蔵あるそうです。また、日本国内のアルコール消費量全体の割合のうち、日本酒はなんと6%しかないそうです。そして、日本酒製造の大手10社で70%を生産しているだとか、日本酒の最大生産高は1973年で、現在は当時の3分の1、酒蔵もやはり23分の1に減少したとのお話でした。

酒造会社として業界の活性化や地域活動にも積極的に参画するなど、次々と新しい知恵とアイデアを駆使した経営をしながら、2年後には創業250年を迎えるそうです。ちなみに、八戸酒造の「八

仙(はっせん)」をお土産で購入し帰宅後一杯。フルーティーでジューシーな味と香りは酒米の華想い(はなおもい)にあると述べていた駒井氏のお話の通りでした。酔い心地、酔い覚めも素晴らしい一品と感心した次第です。

特別講演の2題目は、全鍼師会の往田和章副会長による「鍼灸マッサージ業界の最新情勢について」の講話をいただきました。主な話題は、何といってもマイナンバーカードの保険証との一体化問題です。毎日のようにテレビやマスコミで取り上げられていますし、医療業界はじめ、私たちのあはき業界にも大きく関係することから、多くの時間を割いて詳しくお話いただきました。ご承知のように、来年10月から、紙の保険証を廃止してマイナカードに組み込む前提でその準備を開始している現状において、あはき保険治療業務を行うための必要な機器類についての準備状況、その取り扱い方などについて、厚労省と定期協議していただいている役員の立場から詳しく説明していただきました。

しかし、マイナカード返上が増加している報道もあるなど、性急にことを運ばずに合意形成にもう少し時間を費やしてもいいのではないかと個人的には感じたりもしています。最終着地点が不透明な雲行きもあり、医療現場と国民が混乱だけはしないようにと願いながら往田保険委員長の講演を拝聴しました。

学術大会二日目の9時から、前日に臨床研究発表をされた各県の先生による、持ち時間20分間の実技発表と供覧いうことで、希望者をモデル患者に指導が行われました。

まず、最初は当県の佐藤茂先生の登場となり「不定愁訴と鍼灸」というテーマに沿い、夢分流の打鍼術を披露していただきました。そのほか5名の先生方も持ち時間内で熱っぽく説明と技術指導を繰り広げられていました。日々実践されている学術と個性のあふれたとてもいい「気」に触れることが出来た企画だったと感じました。

続いて、閉会式が行われ、次期開催県である、佐々木実岩手県師会会長から来年7月7日・8日に花巻市「風の季(かぜのとき)」において、ハイブリッド開催のご案内と内容についての説明があり、里村青森県師会副会長から参加者にお礼の言葉が述べられ青森大会は閉幕しました。

最後に、臨床研究発表された佐藤茂先生、参加ご協力いただいた岩手県師会の皆さんに心から感謝を申し上げご報告と致します。

令和5年度生涯研修会報告

令和5年度生涯研修会は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたものの、生涯研修会の開催は社会的状況を見ながら慎重に判断しながら実施しましたが、徐々に以前の活動に戻りつつあり、オンラインやハイブリッド開催を交えながら6回の計画を組みました。その内容と参加者数を次に記します。

1. 6月4日 第1回生涯研修会をハイブリッド開催、会場参加23名、オンライン参加4名、付添い1名の合計28名。(アイーナスタジオ)

- 内容 (1) 講師:井口力保険部長
講演:「保険関係の最新情報について」
- (2) 講師:佐々木実会長
講演:「業界の中央情勢について」
- (3) 講師:佐藤茂先生(盛岡支部、本会副会長)
東鍼連青森大会学術発表予行
講演:「不定愁訴と鍼灸」

(4) 講師:伊藤庸一先生(一関支部、本会相談役)

「あはき講座」

講演:「介護予防と健康づくりへの鍼灸マッサージ師の役割と今後の展望」

2. 7月2日・3日 第2回生涯研修会、東鍼連青森学術大会は会場開催のみとなり、会員11名と付添1名が参加。臨床研究発表テーマは「私の十八番」。(グランドサンピア八戸)

(1) 発表者:佐藤茂先生(盛岡支部、本会副会長)

(2) 演題:「不定愁訴と鍼灸」

(3) 特別講演-1:講師:八戸酒造(株)専務 駒井秀介氏

演題:「地域と共に生きる～伝統と革新～」

(4) 特別講演-2:講師:全鍼師会・往田和章副会長

演題:「鍼灸マッサージ業界の最新情勢について」

(5) 臨床研究発表・実技供覧:東北各県から6名の先生

3. 8月6日 第3回生涯研修会、鍼灸マッサージフェア2024開催。

会員20名、付添い2名参加。(アイーナスタジオ)

内容:「県民対象無料施術体験会」、「無免許施術者注意啓発活動」

(1) マッサージ施術体験

(2) 鍼・灸施術体験

(3) 健康づくり体操指導

・一般来場者は女性17名、男性6名の合計23名、4部門の体験者は延べ57名

4. 10月15日・16日 第4回生涯研修会、東洋療法推進大会in岩手開催。現地参加会員27名、介助者7名、zoom参加会員4名の合計38名。(アートホテル盛岡)

(1) 特別講演

講師:関西医療大学フェムテック寄附講座特任教授 菅 万希子先生

演題:「鍼灸マッサージにおけるフェムテックの展望」

(2) 保険講演:講師:全鍼師会・往田和章副会長

演題:「療養費改定とマイナカード資格確認等について」

(3) シンポジウム-1:座長:全鍼師会・尾野彰副会長

テーマ:「イーハトーブの郷から広めよう!伝えよう!あはきの魅力と組織・将来ビジョンへの具体化と組織発展のための活動のあり方について」

(4) シンポジウム-2:座長:全鍼師会・森孝太郎法制委員長

テーマ:「広告ガイドラインと無免許問題」

(5) 学術臨床研究発表オンデマンド動画配信

・本大会後1か月間6題の動画が配信された

1) 東鍼連学術青森大会 発表6題

2) 「快眠・快食・快便」自然治癒力を高めるツボ療法

3) eスポーツアスリートの身体愁訴、睡眠、気分に関するアンケート調査

4) 斜鍼法-期待される治療効果の汎用性について

5) 産後腰痛に対する骨盤ベルト装着と鍼治療併用のランダム化比較試験第2期の取り組みについて

6) 診鍼連携で取り組んだ顔面神経麻痺の鍼通電療法を起点としての10症例

5. 12月10日 第5回生涯研修会をハイブリッド開催、会場参加19名、オンライン参加5名、付添い3名が参加。(アイーナスタジオ)

内容 (1) 講師:佐々木実会長

講演:「業会の中央情勢と東洋療法推進大会 in 岩手総括及び東鍼連岩手大会について」

(2) 講師:下佐征昭前理事長

講演:「会員在籍 55 年間の思い出」

6. 令和6年2月18日 第6回生涯研修会ハイブリッド開催、会場参加会員13名、オンライン参加会員6名、付添い2名。(アイーナ)

内容 (1) 講演と実技

講師:高橋則夫先生(花北遠野支部長、本会理事)

講演:「開業鍼灸院における東西医学の融合」

実技:「中枢神経と末梢神経起因による検査法」

(2) 講談・講演

講師:地伏亭金目先生(元新聞記者・講談師)

講演:「講談で学ぶ郷土の先人医学者の歴史」

令和5年度を通じた受講者数は、延べ121名で昨年の56名から倍増しました。

また、生涯研修修了認定単位数25単位以上取得者18名が修了証申請者となり、昨年の7名から大幅に増えました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます報告と致します。

組織強化部報告

東鍼連組織強化部長会議報告

高坂徳一

7月2日に行われた東鍼連青森大会組織強化担当者会議に中渡さんの代理で出席して参りましたので、その報告をさせていただきます。

(1)青森県師会 藤巻良子

- ・今年度9月11日にショッピングセンターでスローガン「みんなで作ろう健康の輪」というイベントを企画しています。施術者は技術を持って地域住民に奉仕して、いらっしゃった方々から1施術500円をいただき、それを青森市に寄付して市の健康づくりに役立ててもらおう。
- ・今まで12年間無料でしたが今回から有料とすることでこの代金を市の方へ寄付する形を予定しています。健康についてみんなが考える場にもなるんじゃないかと思っています。アピールしていけば会員の入会にもつながるのではと期待しています。

(2)宮城県師会 後藤ヒトミ

- ・役員が変わり会長が金沢秀紀先生になり、笹沼先生は代議員になりました。山田先生は相談役になり他にも新任の先生がいます。木村ヤスシ先生、杉原先生、竹内先生以上3名が新任で理事と代表理事になりました。平均年齢が40代~50代の役員になります。
- ・会員の動向、入会者1名、退会者11名ということで、理由としては高齢化、入院、病気が主な理由です。
- ・ラジオ番組に出演している(FM太白とFM岩沼)。期間限定で行っていた。
- ・これからの計画としてボランティアマラソンやコロナでできなかったイベントへ参加することやYouTube 配信をしていく。
- ・YouTube 配信は宮城県の治療院の配信を7月からやる予定で考えてるそうです。

(3)秋田県師会 鈴木

- ・6月18日の zoom の概要でもあった入退会ですが、今年度入会が0名で退会が4名です。退会理由は高齢化が理由とされていますが、本当のところは高齢化ではなく保険での請求を外部の業者がレセプトの記入の代理や医者との手続きを代行してやっているところがあるため、そこを利用しているから秋田県師会に入るメリットを感じられないためとのことでした。そのため新しい人も入ってこない状態です。

(4)岩手県師会 高坂徳一

- ・現地参加と zoom を使ったハイブリッド研修を取り組んで行なっています。
- ・今年度の東鍼連岩手交流会は第22回の東洋療法推進大会 in 岩手が盛岡で行われるため中止とさせていただきます。来年は宮城県師会担当でお願いします。
- ・第22回の東洋療法推進大会 in 岩手が10月15日～16日(日、月)において行われますが、参加費等は月刊東洋療法351号に掲載されると思います。東北の多くの皆さんの協力をよろしく願います。
- ・第22回の東洋療法推進大会 in 岩手で行われるインターネット配信の段取りなども他県とも情報共有できたら良いと考えています。

(5)福島県師会 矢吹賢治

- ・叙勲は一般社団法人でもできるため会員のやる気にも繋がるので行っている(菅野先生が今春受章)。
- ・福島県師会は赤十字奉仕団に協力していて、ここで老人ホームの慰問活動やいわき市でビーチバレーのマッサージボランティアやハーフマラソンのお手伝いをする予定です。
- ・全鍼師会でやっている訪問マッサージの資格を東京まで行かないといけないのを地元の地域で取れるように出来ないか。福島県では健康づくり委員がいるのでその試験監督になって取得できるように出来ないか動いています。
- ・福島県では講習会を zoom で参加してくれた人にも論文の提出などを行うことで、インターネット上でも単位を認めようという事を行っています。他の県にも広げられないか検討中です。

(6)山形県師会 菊地 司

- ・コロナのためになかなか活動できず会員の高齢化による退会が多くなっており平均年齢は約60歳です。ただ、今年からコロナが明けてきたということでマッサージとかイベントのボランティア参加するように動いています。
- ・保険請求が個別でも出来るようになったのが退会の理由として挙げられますが、以前に山形県でアンケートを取ったことがあり、先輩たちとの情報共有や技術を学べるメリットに関心が高かったため、こういうのを強めて会員離れや新規会員の勧誘を進めていきたいと思っています。インスタグラムの利用や元々あったパンフレットを新規入会者向けに新たに作りました。

保険部報告

全国保険担当会議報告 (令和6年11月11日、15時15分～17時)

保険部長 井口 力

療養費取り扱いの現状と将来展望

1. マイナンバーカード保険証について

東洋療法推進大会(岩手)での講演内容とほぼ同じ内容でした。

まずは資格確認専用ポータルサイトで11月20日～施術者登録番号を登録し、スマートフォン

やタブレットなどに専用のアプリを入れて(iPadなどはカードリーダーが必要)、それでマイナンバーカードの読み取りをする。来年の4月から開始予定(国から4万1千円の機器補助金が出る)。実際に施術者用ポータルサイトの試験版が公開され登録のデモを試してみました。僕は簡単に登録する事が出来ましたが、佐々木会長も目の不自由な先生方も時間をかければ出来るのではないかとの回答でした。その他、登録の代行なども出来るのかなどや施術管理者の人数の分補助金が出るのか(1施術所に対し一回のみ)の意見もあった。

2. 各県の保険請求額と推移

現状は伸び率が高く業界自体がバブル状態だが、これからは厳しくなってくるのではないかと。マッサージの保険請求で5部位請求が多くマッサージの部位の包括化の要望を出したが保険者側からの反対が多く(警戒が強い)厳しい状態。来年の改正で往療料は一本化される予定。

また、往療の回数制限について往田保険委員長から皆さんからの意見を求められ、各県から今後の締め付けを考えるとある程度の回数制限は必要ではないか、回数制限の中でも結果を出すのがプロの仕事なのではないのか、制度として回数制限が出来るのはいかがなものなのか(頻回の施術を必要としている患者さんもある)などの意見が出された。

回数制限の件は、来年の改定ではないので今後も引き続き話し合いをしていきたい。

東鍼連保険部長会議報告

保険部長 井口 力

各県の保険取り扱い情報やこれからの対策などの話し合いがあり、以下の意見が各県から報告があった。

- ・高齢者会員の退職や会員の施術の技術の差があり保険の取り扱いが低迷している。
- ・これからは、色々とイベントをやっていくなどを実施して地域住民と密着していけば医療マッサージを広めていけるのではないかと。

宮城県

- ・支部単位で動いていた時期もあったが、個人請求が現在では主流となっている。
- ・訪問マッサージも大手の企業が多く、大手の技術の統一を見習いある程度の技術の向上が必要ではないかと。

青森県

- ・個人請求がほとんどで会員のレセプト件数はわからない。
- ・国保連合審査会が出来たおかげでレセプトが通りやすくなった。
- ・同意書があるおかげで返戻がないのではないかと。

秋田県

- ・一億円を突破した時期があったがコロナによって6千万円台に減ってきている。最近は少し復活している。
- ・同意書はおおよそ書いてもらえるが、書いてくれない医師の説得はなかなか難しい。

山形県

- ・勉強会の実施をして保険取り扱いをする会員を増やしていく。
- ・保険取り扱い方法もインターネットで調べられるので今後は必要なのか。
- ・マッサージは本当に医療マッサージとしてやっていけるのかという疑問もあるので学術部と連携して国家資格者としての医療マッサージを確立していきたい。

福島県

- ・高齢者施設の訪問が出来ない状況が続いている。協会けんぽから医師への問い合わせが多

く、医師が同意書を書いてくれなくなってきた。医師より鍼灸マッサージ師会会員としてのケアマネージャーの理解を深めていきたい。

などの意見があった。

また、協会けんぽの現状の話になり、各県によって相違がある形だった。秋田や福島は厳しくないとの事だった。

保険部がこれからやっていく事は、ケアマネや家族さんとの関係性(報告書を家族さんやケアマネージャーに提出するなど)を考える。以上の事などを考慮して勉強会をやっていく。

その他、保険部の勉強会も会議は基本的に zoom で行う。研修会は zoom でセミナーをする事は可能なのか、また保険部として介護保険事業に関しても話し合っていきたい等の意見があった。

最後に、各県で報告書(ご家族に対して、ケアマネージャーに対して)の雛形を個人で作成されている方がいらっしゃるのであれば参考にしたいので、作っている方は雛型をこちらで集めて今後の勉強会で報告する事になったので、また報告書を出しているのか出していないのかも含め情報をお願いします。

事業部報告

事業部長 舘下正則

コロナ前まで続けてきた一関国際ハーフマラソン大会でのマッサージボランティアは、今年もコロナ予防のため行われませんでした。

委員会報告

健康づくり委員会報告

健康づくり委員長 古水健吾

1. 全国地域包括ケア担当者会議報告

- ・会議は2月14日(水)20時から22時まで zoom で行われました。
- ・参加者は全鍼の介護委員、地域包括ケア担当で29名でした。
- ・会議の内容は、全鍼の介護委員会報告と、地域の現状、取り組み等でした。

○全鍼の介護委員会報告

- ・令和5年度の会議は、zoom で9月と1月に行なった。
- ・今後の地域健康づくり指導者をどうするか。また、今までの地域健康づくり指導者以外にも、新しいタイプでの活動ができないか。
- ・地域健康づくり指導者研修会も第17回目に来ているが、年々参加者が先細りしてしまっている。内容として、もう少し人が集まるような企画を提案できないか。
- ・今までは介護予防を1番に取り組んでいたが、今後は健康経営にも少し幅を広げて行きたい。
- ・介護委員会と全鍼で、新たな活動として健康経営を取り入れた健康経営委員会を作った。
- ・治療院で介護予防教室をとり入れ、それをできる人材を育成して行きたい。
- ・介護予防や健康経営を今後の治療院経営にどう役立てて行けるのか分かりやすく会員へ説明できる様な体制を作りたい。

○地域の現状と取り組み

- ・会としては、介護予防や健康づくりなどの活動はほとんどしていない。
- ・今回の会議でなにかヒントになることや、参考になる情報を聞きたいと思い参加した。
- ・会として人材不足もあり、会員への情報発信が難しい。
- ・地域や行政との関わりが難しい。
- ・会員個々が、市町村単位での活動の形でいて、県全体を把握するような活動にはまだつなげられていない。
- ・小さい治療院やグループ等が、身近な所で気軽に取り組める事例を教えて欲しい。
- ・個別で社協でやっている地域の認知症ケア関係の所に関わっている人がいる。
- ・訪問マッサージをやっているが訪問先の患者さんの所で健康体操も取り入れて施術している。
- ・個人的に何ヶ所かの高齢者施設に行き行って施術している。そこで、健康体操などもやっている。
- ・コロナ禍で健康づくり活動ができないでいたが、昨年コロナが5類になったということもあり3年ぶりに会合を行ったり、鍼灸マッサージフェアに参加した。
- ・今後、介護予防だけではなく、東洋医学を活かした健康づくり活動もしていきたい。
- ・全鍼の健康づくり教室で学んだことを土台にして、筋肉トレーニングを県内地域を回り、会員に広める活動をした。また、免疫アップのツボ療法という内容で、新聞に2度にわたって掲載してもらい、それを広める活動をした。
- ・行政と鍼灸マッサージ師会が地域包括連携協定を結んでいて、そこでお灸セミナーを年3回行事として行った。
- ・鍼灸マッサージ師会が、医師主催の在宅医療導入セミナーに参加している。その中で、医師・看護師等との関りをもちながら、在宅医療へ入っていけるよう勉強をしている。
- ・ケアマネをやっているので、地域包括支援センターとのつながりを大事にしている。包括センターでは健康推進を進めるため、ミニディや、健康体操等を地域で行なっている。そこに鍼灸マッサージを結びつけられるよう働きかけをしている。
- ・老人ホームや、デイサービス等で、介護福祉士・機能訓練指導員として勤務している。
- ・会員個々で、デイサービスセンターや、福祉施設を経営している。
- ・訪問マッサージをやっていたが、今は機能訓練特化型のデイサービスを始めた。そこで、介護予防を中心にやっている。

○今回の会議に参加して

- ・地域の現状や、取り組みの様子を聞いて参考になりました。
- ・介護予防や地域包括ケア等の取り組みは、進んでいる地域もありますが、全体的には進んでいる地域は少ないようです。
- ・そんな中で、個人や小グループで、いろいろ考えながら、健康づくり活動を行っている地域もあるようです。
- ・健康経営については、全鍼で健康経営委員会を作りましたが、地域からは現状や取り組みについてあまり話はできませんでした。これから動きが出てくると思います。
- ・今後の活動として、介護予防ということだけではなく、幅広く鍼灸マッサージを活かした健康づくり活動をしていくこともいいのではと思います。
- ・又、個人や、小グループ等で情報交換、情報収集その発信といった活動をやっていくことで、小さい所から広げていくのも良いのではと思います。

2. 令和5年度健康づくり委員会活動報告

委員長 古水健吾

令和5年度の委員会活動は、3年ぶりに会合を開いたり鍼灸マッサージフェアに参加したりと、少しずつ以前の活動に戻りつつあります。

1. 第28回勉強会と打ち合わせ会議開催

- ・実施期日: 令和5年6月4日(日)15時30分～16時 出席者5名
- ・会場: アイーナ4階・アイーナスタジオ
- ・内容: (1) 令和元年度から4年度の経過報告
(2) 令和5年度8月6日「鍼灸マッサージフェア2023」の健康体操、運動指導部門分担について打ち合わせ

2. 鍼灸マッサージフェア 2023 に参加

- ・実施期日: 8月6日(日) 委員会出席者3名
- ・会場: アイーナ4階・アイーナスタジオ
- ・内容: 健康体操、運動指導部門担当
一般来場者に下記メニューを選択して指導
 - ① 経絡テストと経絡ストレッチ…腰痛: 予防と治療
 - ② 経絡テストと経絡ストレッチ…首・肩こり: 予防と治療
 - ③ 症状別のツボ押しやストレッチ体操・運動指導
 - ④ 貯筋運動 …… 4つの運動と歩行

3. 第29回勉強会と打合せ会議開催

- ・実施期日: 令和6年2月18日(日) 委員会出席者6名
- ・会場: アイーナ7階・701会議室
- ・内容: (1) 令和5年度健康づくり委員会活動報告
(2) 鍼灸マッサージフェア 2023 参加報告
(3) 第29回勉強会と打合せ会議実施
(4) 全鍼師会地域健康づくり指導者研修会参加予定(3/9)
(5) 令和6年度健康づくり委員会活動計画案討議
(6) その他: 2月14日、全国介護担当委員会報告

4. 全鍼師会地域健康づくり指導者研修会及び地域包括ケア担当者会議参加

- ・実施期日: 令和6年3月9日・10日(土・日) 古水委員長がオンライン参加した
- 健康づくり委員会は、全鍼師会主催の研修会や担当者会議などで、全国の情報を取り込みながら、新年度も継続して活動して行きたいと思います。

無免許対策委員会報告

令和5年度無免許対策委員会活動報告

委員長 千田節雄

- ・鍼灸マッサージフェア(会場アイーナ)で無免許防止チラシを配った。
- ・無免許チラシや違反広告を集めて保健所に指導をお願いしているが、今年度は一関保健所が違反広告に対応してくれた。

東鍼連青森大会 学術臨床発表(抄録文)

タイトル 不定愁訴と鍼灸

【所属団体】 岩手県鍼灸マッサージ師会

【演 者】 佐藤 茂

本文は目的・方法・結果・考察・結語を含め600文字までとします。

なお、本文の追加資料が必要な場合は別紙を添付してください。

【目的】 鍼灸による不定愁訴の改善。

【方法】 施鍼や施灸によって、脈や腹部、背部の変化と共に患者側の訴えにも変化が連動するか観察しつつ臨床を進めてゆく。

症例 72歳女性 職業 酪農

整腸剤や降圧剤、脂質異常症に逆流性食道炎にも罹患しておりそちらの薬も服用中

既往歴: 左果部骨折、静脈瘤の手術歴あり

自覚症状: 多岐にわたる

鍼: 山正 NEO ディスポ 寸3(1番)、寸6(4番)、2寸(5番)

灸: 箱灸、温灸、灸頭鍼

配穴: 照海、天牖、陽池、中腕、百会、中封、尺沢、大敦、期門、胆囊点、気海、滑肉門、大巨、帯脈、次髎、会陽、屈伸、腰眼、背部俞穴

【結果】 脈や腹部、背部の変化と共に症状が楽になると患者自身が実感され概ね良好な結果となった。1度の鍼灸でも効果があり4日後、2回目の再来院時では腰痛のみ愁訴になった。

【考察】 不定愁訴は自律神経系に機能障害があり、鍼灸はこれらの機能改善に作用し、症状の改善も伴うものと考えられる。

【結語】 鍼灸は主に運動器の疼痛へのアプローチが何かと多く語られる感があるが、不定愁訴へのポテンシャルを感じずにはいられない。

佐藤 茂プロフィール

- ・平成11年 はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師免許習得
- ・平成22年 柔道整復師免許習得
- ・現在は鍼灸専門に臨床をしている

各支部報告

盛岡支部活動報告

支部長 佐藤 明

令和5年度に入り、新型コロナウイルス感染症は、5月8日に感染症法上の2類相当から5類へ移行したあと徐々に落ち着いてきて、業会の活動もコロナ前に戻ってきました。

業会活動の年度初めには、まず、4月の支部定例総会があり、出席者16名、委任状23名の計39名が出席して開催され議題は全て承認されました。

また、一年間を通して生涯研修会や東鍼連及び東洋療法推進大会等の参加者数は、点字25名、墨字38名、zoom4名、合計67名の会員の参加協力がありました。前年度は32名でしたので倍増になりました。特に10月の全国大会の際は、会員と介助者5名を含め21名の参加協力があ

り、大会の盛り上げに貢献することができたと思います。

支部総会と県師会総会の出席や忘年会・新年会への参加者も増えて、研修会等の参加人数を加えると前年度69名から今年度124名の約2倍に増えるなど、支部会員の積極的な協力による活動が活発化してきたことを喜びたいと思います。

次に、盛岡市委託事業の健康づくりマッサージ等指導教室は、4月から翌年3月まで、老人福祉センターにおいて対面式で指導が行われ、高齢者の健康保持増進と介護予防に貢献ができたと思います。教室は70回実施され、指導員のべ138名により高齢者の利用者はのべ705名でした。前年度は540名でしたので、コロナが明けたことから大幅に増えたものと思います。

また、8年目となる支部情報メールを25回配信し、年度末時点では通算162回になりました。その時々の活動状況のお知らせや諸連絡の一斉送信により、情報の共有と会の友和の役割を果たすことができたのではないかと考えています。

続いて活動日誌からの報告をします。

4月 9日 令和5年度支部定例総会が開催され、会員48名中、出席者16名、委任状23名、計39名が出席した。議長は村上直人(むらかみなおと)氏が務め、提案された全議案が全会一致で承認された。総会終了後、第1回支部役員会議が開催され、役員7名が出席した。(盛岡市総合福祉センター)

5月14日 岩手県師会第82回定時総会が開催され、会場出席会員20名と付添い1名、zoom参加1名の計21名が出席し、委任状は16名。(アイーナ)
総会后、懇親会・祝賀会があり、会員14名と付添い1名が出席した。(濱野井)

6月 4日 岩手県師会令和5年度第1回生涯研修会がハイブリッド開催され、会員16名、付添い1名が参加した。(アイーナ)

6月24日 健康づくり・マッサージ等指導教室第1回全体ミーティング開催。指導員4名出席。(アイーナ)

7月2日・3日 東鍼連青森学術大会(第2回生涯研修会)が開催され、会員6名、付添い1名が参加した。臨床研究発表は当支部の佐藤茂氏による「不定愁訴と鍼灸」の発表が行われ、翌日はその実技披露が行われた。(グランドサンピア八戸)

8月 6日 鍼灸マッサージフェア2023(第3回生涯研修会)が開催され、会員13名と付添い1名が参加した。(アイーナ)

8月27日 第2回支部役員会開催。役員3名出席。(アイーナ)

9月30日 健康づくり・マッサージ等指導教室第2回全体ミーティング開催。指導員4名出席。(アイーナ)

10月15・16日 第22回東洋療法推進大会in岩手(県師会第4回生涯研修会)が開催され、会場参加会員14名、介助者5名、zoom オンライン参加2名の盛岡支部合計21名が参加した。(アートホテル盛岡)

11月12日 第3回支部役員会開催。役員4名出席。(アイーナ7階・709号室)

12月10日 岩手県師会第5回生涯研修会がハイブリッド開催され、会員9名、付添い2名が参加した。(アイーナ)研修会后、東洋療法推進大会 in 岩手打ち上げパーティー・忘年会・各種受賞者を祝う会があり、会員8名と付添い2名が出席した。(濱野井)

令和6年1月7日 盛岡支部新年会開催。会員10名と付添い1名が出席した。(濱野井)

1月21日 岩手県師会執行部会議終了後、新年会が開催され会員2名、付添い1名が参加した。(花巻市・松倉温泉ホテル風の季(とき))

2月 3日 健康づくり・マッサージ等指導教室第3回全体ミーティング開催。指導員4名出席。

(アイーナ)

2月18日 岩手県師会第6回生涯研修会がハイブリッド開催され、会場6名、付添い1名、オンライン1名の会員が参加した。(アイーナ)

3月 3日 健康づくり・マッサージ等指導教室第4回全体ミーティング開催。指導員4名出席。
(岩手マッサージセンター)

3月24日 第4回支部役員会開催。役員6名出席。(岩手マッサージセンター)

次に、会員動向についてですが、令和5年度の新入会者は4月に3名の方が入会されました。日野沢瑛(ひのさわひなわ)さん、山本一也(やまもとかずや)さん、高坂徳一(こうさかのりかず)さんです。そして、10月には北口昇司(きたぐちしょうじ)さんの4名が新しく仲間に加わりました。

退会者は2名でした。6月に千葉敏行(ちばとしゆき)さんが13年間在籍され退会されました。年度末には佐々木薫(ささきかおる)さんが31年間在籍され退会されました。在籍中にご貢献いただいた2名の方に対して心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

最後に、令和5年度は東洋療法推進大会 in 岩手の成功を目標に結束して活動し、大会成功に協力することが出来たと思います。このエネルギーを生かし、令和6年度の東鍼連岩手大会が成功するよう積極的に協力して行きたいと思います。

一関支部活動報告

支部長 舘下正則

岩手県師会の皆さん、元気に新年を迎えられたでしょうか。

さて、新型コロナウイルスも令和5年の5月に2類から5類へと移行し、国は経済優先の方向転換をされましたが、治療に携わる私たち鍼灸師は常に感染リスクを伴っています。引き続き感染対策は欠かせません。

活動報告

令和5年

4月 9日 定期総会 福祉センター 会員8名 顧問1名出席

役員改選の年でしたが、引き続き留任となりました

5月14日 第82回定時総会開催 (会場;アイーナ) 会員4名出席

6月 4日 第1回生涯研修会開催 (会場;アイーナ) 会員4名受講

7月2日・3日 東鍼連青森大会 (会場;ホテルグランドサンピア八戸) 2名参加協力

8月 6日 鍼灸マッサージフェア 会員4名 付添い1名 参加協力

10月15日・16日 第22回東洋療法推進大会 in 岩手大会 会員4名 付添い1名参加協力

11月15日 一関師会の千葉謙一さんが厚生労働大臣賞を受賞されました

12月10日 生涯研修会終了後、忘年会並びに受賞者祝賀会 (マリオスレストラン濱野井)
会員4名 付添い1名参加協力

令和6年

1月21日 第3回県師会執行部会議並びに新年会 (花巻市 松倉温泉 ホテル風の季)
2名参加協力

会員動向

前年度と変わらず、会員9名で活動していきます。

奥州支部活動報告

支部長 千田節雄

奥州支部は、コロナ感染者が増加した時点から活動を控えていましたが、今年度は9月24日に視福協と合同で水沢ボランティアフェスタにおいて、30数名のマッサージ奉仕を行いました。

また、1月21日に視福協と合同で新年会を行っています。

大船渡支部活動報告

大船渡支部長 古水健吾

令和5年度はコロナが5類になったということで、個人個人で地域の活動に参加するようになってきました。

大船渡支部でも、総会と忘年会を行なうことができ、近況報告や、情報交換等ができました。

令和6年度は、県師会行事への参加など、活動の範囲を少しずつ広げていければと思います。

二戸支部活動報告

支部長 古舘吉弘

二戸支部は、会員が3名であるということ、コロナで活動を自粛していたこともあって、令和5年度は県師会の行事に参加協力する以外は特に支部活動は行いませんでした。

花北遠野支部活動報告

支部長 高橋則夫

当支部は、令和6年7月7日、8日に行われる東鍼連岩手大会の会場が花巻市の松倉温泉・風の季になっていることから、1月21日には下見を兼ねての執行部会議や新年会のお世話をしました。

令和6年度は、東鍼連岩手大会のために県師会に協力して行きたいと考えています。

「風の季」はとても良い温泉です。皆さんの参加を心よりお待ちしております！

釜石宮古支部活動報告

支部長 佐々木きみ子

釜石宮古支部は、会員が8名と前年と変わりありませんでしたが、活動は特には行っておりません。

県総会(2名)や研修会(修了者1名)、東鍼連青森大会(1名)などに参加協力しております。

来年度は東鍼連岩手大会が花巻市でありますので、近くでもあり皆で参加協力するように呼び掛けて行きたいと思っています。

第22回東洋療法推進大会

in 岩手特集

《第22回東洋療法推進大会 in 岩手 写真コーナー》 (2024年10月15日～16日)



開会式直前のステージ



岩手県知事のビデオメッセージ



菅万希子先生の特別講演



会場参加者全景



「らら・いわて」の買い物風景



懇親会直前の会場とステージ



佐々木会長と来賓諸氏



佐々木会長の懇親会開会挨拶



及川清隆 県視福協理事長 来賓挨拶



近藤健一 視覚支援学校長 来賓挨拶



岩手県師会会員諸氏と懇親会風景



岩手県師会会員諸氏



盛岡さんさ踊り「さんさ好み」の皆さん



盛岡さんさ踊り「さんさ好み」の皆さん



鍼灸師で歌手・高橋のりお 歌謡ショー



徳島県・高島師会長へ大会旗引継ぎ



第22回 東洋療法推進大会 in 岩手

プログラム

10月15日(日) 3F 鳳凰の間

12:00 【開会式】

(司会 : 西島登貴子)

開会挨拶	会長代行	長嶺 芳文
開催県師会長挨拶	岩手県師会長	佐々木 実
ご来賓	岩手県知事	達増 拓也 様
	盛岡市長	内館 茂 様
	自由民主党 衆議院議員 財務大臣	鈴木 俊一 様
	自由民主党 参議院議員 内閣府特命担当大臣	自見はなこ 様
	公益社団法人 日本医師会 会長	松本 吉郎 様
	公益社団法人 東洋療法学校協会 会長	清水 尚道 様
	公益社団法人 全日本鍼灸学会 会長	若山 育郎 様
	一般社団法人 日本東洋医学系物理療法学会 会長	山口 智 様
	公益財団法人 東洋療法研修試験財団 理事長	奈良 信雄 様
	公益財団法人 国際医療技術財団 理事長	小西恵一郎 様
	特定非営利活動法人 AMDA 理事長	菅波 茂 様
祝電披露		
閉会挨拶	副会長	往田 和章

12:40 【特別講演】「鍼灸マッサージにおけるフェムテックの展望」

講師：京都大学大学院 健康情報学・附属病院倫理支援部

教授 中山 健夫 先生

関西医療大学フェムテック寄附講座 特任教授 菅 万希子 先生

14:20 【保険講演】「療養費改定とマイナカード資格確認等について」

講師：(公社) 全日本鍼灸マッサージ師会 保険委員長 往田 和章

15:50 【シンポジウム①】「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」

(組織委員会・将来ビジョン検討委員会)

司会・座長：石川 英樹・尾野 彰

パネリスト：長嶺・往田・狩野・廣野・小川・仲嶋・森・佐々木

18:00 【懇親会】

(司会： 佐藤明・高橋則夫)

開会挨拶	岩手県師会長	佐々木 実
乾杯	徳島県師会長	高島 弘和
ご来賓	自由民主党 衆議院議員	藤原 崇 様
	岩手県議会議員 岩手県師会顧問	神崎 浩之 様
	自由民主党 参議院議員	広瀬めぐみ 様
	公益社団法人 全日本鍼灸学会 会長	若山 育郎 様
	一般社団法人 日本東洋医学系物理療法学会 会長	山口 智 様
	公益社団法人 日本鍼灸師会 会長	中村 聡 様
	公益財団法人 国際医療技術財団 理事長	小西恵一郎 様
	特定非営利活動法人 AMDA	今井 賢治 様
	公益社団法人 全国病院理学療法協会 会長	平野五十男 様
	社会福祉法人 岩手県視覚障害者福祉協会 理事長	及川 清隆 様
	岩手県立盛岡視覚支援学校 校長	近藤 健一 様
	盛岡医療大学校 鍼灸学科長	加納 舞 様
	関西医療大学フェムテック寄附講座 特任教授	菅 万希子 様
	厚生労働省 医政局医事課 医事専門官	景山 庸平 様

～アトラクション～ 盛岡さんさ踊り:「さんさ好み」の皆さん/歌:高橋のりおさん

中締め	副会長	狩野 裕治
閉会挨拶	業務執行理事	尾野 彰

10月16日(月) 3F 鳳凰の間

9:30 【シンポジウム②】「広告ガイドラインと無免許問題」

(法制委員会)

司会・座長	: 法制委員長	森 孝太郎
シンポジスト	: 厚生労働省	景山 庸平 様
	副会長	石川 英樹
	理事	清水 洋二

11:10 【閉会式】

大会旗 引継ぎ

徳島県師会長挨拶

閉会挨拶

高島 弘和
長嶺 芳文



開会の挨拶 主催者代表挨拶

全鍼師会会長代行 長嶺芳文

皆さんこんにちは、ただいまご紹介いただきました会長代行の長嶺と申します。実は昨日、代行ということが決まりまして、初めてのご挨拶になるわけですが、今日は東洋療法推進大会 in 岩手開催できましたこと本当に喜ばしく思っております。開催の運営にあたりましては、岩手県師会の先生方に大変ご尽力いただきまして本当にありがとうございます。

また、大変お忙しい中この会場に足を運んで頂きましたご来賓の方々に心より感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、今大会でございますが、北は北海道、南は沖縄まで多くの方に予想以上の参加の方がいらっしゃいまして、大変盛会に進んでいると思います。この大会は、今回「広げよう！伝えよう！あはきの魅力」ということですが、やはり学ぶことから始めて行かないとなかなか伝えることができないと思っております。今日この後の講演では、菅万希子先生にご登壇いただきましてフェムテック、鍼灸マッサージがこのフェムテックというものにどのように関わることができるかというお話を頂きます。フェムテックというのは、フェムというのは女性、テックというのは技術ということで、女性に対して私たち鍼灸マッサージ師がどのように関わっていけるか、特に女性はホルモンの変化が激しく不定愁訴がさまざまな問題として取り上げられております。女性が活躍する今後の社会の中で、鍼灸マッサージ師がどのように関わり国の生産性を向上させるということまでご協力ができればと考えております。

その後の講演では、保険の療養費の改定が来年ございます。これも私たちにとってとても重要な課題でございます。さらに、マイナンバーカードによる資格の確認、なかなか複雑な面がございますのでこの辺のお話を頂き、さらに会員全体の意見を聞く会をこの後に催す予定でございます。

また、明日は、無資格問題、広告ガイドラインについても厚労省の専門官の影山先生をお招きしまして、いろいろ詳しいお話をいただけるということでございます。

この2日間、大変充実した内容で取り組むつもりでございますが、皆さんもしっかり「あはきの魅力」を国民全体に伝えられるように学んで頂ければと思いますし、2日間楽しんでいただければ本当にありがたいかなと思っております。

結びになりますけれども、この業界に関わるすべての方々のご発展、そしてご健勝とご活躍を祈念いたしまして結びの挨拶とさせていただきます。今日から2日間本当に皆さんよろしく願いいたします。

開催県 歓迎の言葉

岩手県師会会長 佐々木 実

皆さんこんにちは、ようこそ岩手に、そしてようこそ盛岡にいらしてくださいました。

今日と明日の2日間オンラインの参加者の皆さんを含めて、延べにしますと600人を超える参加者ということになっています。本当にありがとうございました。

岩手県の郷土の偉人でもあります宮沢賢治は、「世界全体が幸福にならなければ個人の幸せはない」と言いました。そしてその理想郷を「イーハトーブ」と名付けました。その第一歩が岩手からということで岩手を「イーハトーブの国」というふうに言いました。その理想郷いわて「イーハトーブの郷から、広めよう！伝えよう！あはきの魅力」ということで、多くの皆様とご来賓の皆様のご出席を仰ぎまして、「第22回東洋療法推進大会」をここで開けるということは、岩手県師会一同の本当の喜びでございます。

どうかこの2日間、親睦を深めて又討議を深めて、そして盛岡の味岩手の味そして岩手の人情にも触れていただきたいというふうに思っています。どうぞ2日間よろしく願いいたします。

お祝いのビデオメッセージ 岩手県知事

第22回東洋療法推進大会 in 岩手が全日本鍼灸マッサージ師会の皆様をはじめ、全国各地から多くの鍼灸マッサージの方々お迎えし、岩手県を会場に盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。東洋療法推進大会は全国の鍼灸マッサージ師の資質向上のため新型コロナウイルス感染症流行下においても、オンラインなどを活用し継続されてきたものと伺っております。

これもひとえに、各地の鍼灸マッサージ師会をはじめとした関係の皆様のご尽力あってのことと思います。

医業を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少の加速に伴う患者数の減少、医療の高度専門化に加え新型コロナウイルス感染症の発生や医師不足偏在の中で、令和6年から医師の時間外労働時間の上限規制が開始されるなど大きく変化してきています。このような環境の変化を踏まえ、本県では現在、新たな保健医療計画の策定を進めており限られた医療資源のもと医療も関係団体と連携しながら急性期医療から在宅医療に至るまで、切れ目のない持続可能な医療提供体制の構築を進めてまいります。公衆衛生の向上、国民の健康増進を目指し活動されている鍼灸マッサージ師会の皆様方につきましても引き続きご協力賜りますよう宜しくお願い致します。

今回の開催地である岩手県には、今年1月ニューヨークタイムズ紙において2023年に行くべき5カ所のうち、ロンドンに次ぐ二番目に紹介された盛岡市を始め、平泉、橋の鉄鉱山、御所野縄文遺跡の全国で最も多い三件の世界遺産や漆器や南部鉄器といった伝統工芸品など多くの魅力があります。また、おもてなしの気持ちに由来するとされる、わんこそばをはじめとする盛岡三大麺、豊かな農産物や三陸の海の幸などの魅力にもあふれております。是非本県の魅力をご堪能いただければと思います。

結びに、第22回東洋療法推進大会 in 岩手の開催にご尽力された関係の皆様には深く敬意を表しますとともに、公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会と一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会の今後ますますのご発展と会員の皆さま及び本日ご参集の皆様の一層のご健勝ご活躍ご多幸を祈念し祝辞と致します。

令和5年10月15日

岩手県知事 達増拓也

祝辞 盛岡市長

本日盛岡市長が所要のために出席が叶いませんでしたのでメッセージを預かってまいりましたので代読させていただきます。

本日ここに第22回東洋療法推進大会 in 岩手が開催されるにあたり一言お祝いを申し上げます。本大会にご参加の皆様、ようこそ盛岡にお越しくださいました。盛岡市民を代表しまして心から歓迎いたします。皆様方におかれましては、日頃より、あん摩マッサージ指圧・鍼・灸の資質の向上に取り組み、広く国民の健康増進に寄与されておりますことに対し深く敬意を表するものであります。また、今回イーハトーブの郷から「広めよう！ 伝えよう！ あはきの魅力」をテーマに当地において、特

別講演、シンポジウムなどを通じてさらなる研鑽を積まれますことは誠に意義深いことと存じております。

さて、盛岡市は南部盛岡藩の城下町として400年を超える歴史と伝統を有し、石川啄木が生まれ育ち宮沢賢治が青春時代を過した歴史や文化と美しい自然とが調和した街です。また、新幹線高速道路などの交通の要衝にもなっており、北東北の玄関口として発展してまいりました。

市内には、岩手山や北上川など豊かな自然を感じていただける場所が多くあるほか、もりおか歴史文化館やもりおか啄木・賢治青春館をはじめとした、城下町盛岡の歴史や文化などを紹介する施設もございます。

また、今年1月にはアメリカのニューヨークタイムズ紙が発表した2023年に行くべき52箇所に本市が選ばれたところであります。ご参会の皆様にはこの機会に盛岡の風情と人間味豊かなおもてなしの心に触れていただければと存じます。

結びに、皆様にとって本大会が実り大きいものとなりますようご期待申し上げますとともに、公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会の一層のご発展と本日ご参会の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

令和5年10月15日

盛岡市長 内館 茂

代読 医療福祉部保健衛生監 加藤彩子

お祝いのメッセージ

本日ここに、全日本鍼灸マッサージ師会主催及び岩手県鍼灸マッサージ師会共催による「第22回東洋療法推進大会 in 岩手」が、全国の会員の皆様をはじめ、関係各位ご臨席の下に、盛大に開催されます事を心からお慶び申し上げます。

本来であれば、私も是非、本日の全国大会に出席させて戴き、皆様方に、お祝いと激励のご挨拶を申上げるべきところではございますが、調整のつかない公務と重なり、どうしても出席できません事を深くお詫び申し上げます。

東洋療法は、長い歴史の中で日本独自の生活習慣や風土に立脚しながら、常に住民に寄り添い、めざましい発展を遂げて来られました。鍼灸マッサージ師の皆様には、人間本来の持つ自然治癒力の向上をめざし、東洋療法の普及・推進と学術的研鑽に取り組まれる、日ごろの弛みない活動に、心から敬意を表します。

東洋療法のますますのご発展と、「第22回東洋療法推進大会 in 岩手」のご盛会をご祈念申し上げます、私からのお祝いのメッセージとさせていただきます。

令和5年10月15日

衆議院議員 財務大臣 鈴木俊一

ビデオメッセージ 日本医師会会長

第22回東洋療法推進大会が岩手県において盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、岩手県鍼灸マッサージ師会におかれましては、昨年12月に創立80周年を迎えられたとのこと、誠にめでとうございます。改めまして、全日本鍼灸マッサージ師会の皆様方におかれまし

では、鍼灸マッサージを通して国民の健康増進に寄与され、また、このように一堂に会して、あるいはオンラインで新しい知識技術の研鑽に励んでもらえることに深く敬意を表します。

本大会では「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」をテーマに講演やシンポジウムが行われると伺っております。鍼灸マッサージは国民の皆さんにとって身近であり、効果を実感されている方も大勢おられます。一方で国民の皆さんがマッサージを受けようとした際に、有資格者によるものなのか無資格者によるものなのか区別がついていない方も多くおられると思います。

あはきの魅力を発信していく際には、安全性の観点から有資格者によるマッサージを受けていただくよう合わせてご案内のほどお願いいたします。さて、我が国ではこれまで2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が進められてきましたが、さらに先の大きな人口構造の変化を見据えた対応が求められています。すなわち、65歳以上人口は2042年頃にピークを迎える一方で、生産年齢人口が急減し、今後の医療介護を支える人材の確保、そして財政面での大変厳しい局面を迎えることが見込まれています。本年5月の関連法案の成立によりすべての世代で広く安心を支えていく、全世代採用型社会保障制度の構築に向け動き出しました。

私ども医師会と致しましては、地域住民の信頼に応えるかかりつけ医機能がさらに発揮されるよう取り組みを進めてまいります。課題が山積していますが、持続可能な社会保障制度の構築に向け、関係団体が一致団結して難局を乗り越えていけなければなりません。全日本鍼灸マッサージ師会の皆様方におかれましても引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、全日本鍼灸マッサージ師会の一層のご発展と本日ご参集の皆様方のますますのご健勝ご活躍を祈念致しまして、私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

令和5年10月15日

公益社団法人 日本医師会会長 松本吉郎

祝電 厚生労働大臣

本日第22回東洋療法推進大会 in 岩手が開催されるにあたり一言ご挨拶申し上げます。公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会におかれては、昭和22年の創立以来、鍼灸マッサージの進歩発展にご尽力され、国民の健康の維持増進に大きく貢献していただきました。伊藤会長をはじめとする、貴会の皆様のこれまでのご尽力とご貢献に対し深く敬意を表します。さて、我が国では、世界最高水準の平均寿命を達成し、人生百年時代の到来を見据えて、子供から子育て世代お年寄りまで、すべての方が支えあう持続可能な全世代型社会方針の構築が大きな課題となっています。本年5月には、全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律が成立しております。医療介護間の連携が強化され、地域包括ケアシステムの構築がさらに推進されることとなっております。

このような中で鍼灸マッサージの果たす役割や鍼灸マッサージに対する国民の期待は今後ますます大きくなっていくものと考えます。鍼灸マッサージ師の皆様が研鑽を重ね、これまで以上にその真価を発揮されていくことを期待しております。

今年の大会は「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」をテーマに開催され、公開講座やシンポジウムを通じて更なる鍼灸マッサージの発展と国民の公衆衛生向上を目指されると伺っております。この大会を通じて、より高い資質を持った鍼灸マッサージ師が養成され、国民の健康の維持向上に生かされることを心より願っております。

最後になりますが、貴会のますますのご発展と、本日ご参集の皆様のご健勝ご活躍を心より祈念

致して私の挨拶といたします。

令和5年10月15日

厚生労働大臣 武見敬三

ビデオメッセージ

皆様こんにちは、自見はなこでございます。本日は岩手県で全日本鍼灸マッサージ師会が開催されると伺っております。伊藤会長をはじめとした先生方に、日頃から大変ご支援賜りまして誠にありがとうございます。

また、この度は9月13日付けで、本当にびっくりいたしましたけれども、国務大臣を拝命いたしまして就任いたしました。私の担当は、内閣府の特命担当大臣として沖縄北方対策、また消費者食品安全、そして地方創生アイヌ施策の大きな塊と、また、同時に2025年の4月から半年間、大阪で開催されます大阪関西博覧会の担当大臣でもございます。

今まで、先生方に2期国政に送り出していただきまして、全国津々浦々のさまざまな課題を拝見をさせて頂きましたが、実は今回の万博は命輝く未来社会のデザインでありまして、まさに、医療がコロナの後初めて開かれる国際万博で、どのように世界に貢献してきたか、あるいは、これからより一層貢献できるか、ということも大きな見せ場となっております。課題は山積しておりますが、年末の診療報酬改定に向けて一議員として汗をかこうとしていたところ、こちらの閣内にきました。気持ちが変わりませんので、引き続き先生方の施策を後押しさせていただきながら、一緒に歩んでまいりたいと思っております。きめ細やかな先生方たちの女性や子供目線を含めたご貢献への本当に温かいご要望もしっかりとこれからも受け止めてまいりたいと思います。

今日は動画での参加となりましたことをお許しください。これからも先生方と一緒に頑張ります。

令和5年10月15日

参議院議員 内閣府特命担当大臣 自見はなこ

開会式 閉会の言葉

全鍼師会副会長 往田和章

皆さんこんにちは、冒頭開会の挨拶で長嶺先生よりお話があったかと思いますが、我々の大事な会長である伊藤会長の体調不良により、新たに長嶺先生が我々の会長代行として今回の大会の運営を指揮していただくこととなりました。これは、我々執行部一同の総意であり、長嶺先生を中心として理事一同これを支えていきたいと強く願っております。会員の皆様におかれましてもぜひこの執行部の体制を支持応援していただければと思っております。

今回の東洋療法推進大会 in 岩手は、長い長いコロナ禍が終わり正常化に向けて世の中が動き出した中で、初めての全国大会になります。このコロナ禍の間に、全日本鍼灸マッサージ師会執行部は従来の事業に加え、フェムテックや健康経営といった鍼灸マッサージ師の新たなステージに向けての第一歩を踏み出すべく着々と準備を進めておりますし、デジタル化や公式LINEアカウントの開設、また公式チケットの開設を通じて会員の皆様だけではなく、非会員の鍼灸マッサージ師や一般の方に対してどのような情報を届けていくかということを検討してまいりました。今回の東洋療法推進大会 in 岩手は必ず10年後20年後に鍼灸マッサージ師会ならびに鍼灸マッサージ業界が大きく変わった始まりの日であったと言うふうに評価されると強く信じております。ぜひこの2日間

を通じて皆様方もこの時代の大きな変化の一日にぜひ一緒に参加していただき、これからの鍼灸マッサージの未来を共に考え共に学んでいく歴史的な日を一緒に体現することを実施して行きたいと思っております。

この2日間、我々執行部一同手が回らない所もあると思いますが、ぜひ皆さんのお力添えをいただきながらこの大会を有意義である大会になるように頑張ってもらいますので、どうぞ2日間よろしくお願いたします。

これもちまして閉会の挨拶とさせていただきますありがとうございます。

閉会式 開催県挨拶

岩手県師会長 佐々木 実

皆さん、2日間大変ご苦労様でしたお疲れ様です。第22回の東洋療法推進大会「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」ということで、昨日12時からスタートしました。

まず、記念講演でフェムテックのお話がありました。私たちは、ずっと女性っていうのを強く意識してやってきたつもりでございますが、もっと女性を強く意識して、そして女性を大切に下さいというお話が出まして、これから尚一層大事にしていかなきゃならないのかなというふうな、非常に男性としては弱い立場になったのかなと思ったような。あまり言いますとハラスメントとか言われますのでこの程度にしますが、とにかく皆さん女性を大事にしましょうということでした。

その後の往田先生のマイナ保険証のこれからの流れ、そして療養費改正のお話等々、私たちにとても保険もまたこれから一つ大きな転換を迎えつつあるのかなというような予感も致しました。そして、シンポジウムそれぞれ魅力ある全鍼、魅力ある鍼灸マッサージということでいろんな意見を出してもらいました。これが一つ一つみんなで力を合わせて叶うようにして行きたいなというふうに思った次第です。

そして、今日の広告ガイドラインと無免許の問題。治療院という名が残ったということは本当に良かったなというふうに思ってますし、また、あの無免許者というムジナをどう退治するかと、これが非常に大変なこととして、やっぱり一つ二つではなくいろんなところに罠を仕掛けたりとか、猟犬を使って追い回したりとか、そういう方法や色んな形でやっていかなきゃならないのかなとか思いながら聞いていました。

全鍼、魅力ある全鍼そして魅力ある鍼灸マッサージということで、2日間やってきましたけれども、これらが一つ一つ叶って行けば、ちょうど全鍼は今脱皮の時期、一皮剥ければ美しい魅力ある蝶のように、全鍼は美しい蝶になるのではないかと、そんな期待をして2日間終わりました。

盛岡はご覧の通り山に囲まれた盆地です。一番高い岩手山は2038mありますが、その麓の盛岡ではあはきの魅力について語りあえた2日間。語り合えたということは本当に有意義だったと思います。しかも、昨日から耳にタコができるほどいやいや耳にたんこぶができるほど聞いてると思いますが、この盛岡は世界で二番目に行くべきところと言うふうに言われています。その言われた2023年、そしてまたコロナ明けの2023年、そしてまた岩手県出身の大谷翔平が大リーグでホームラン王を取ったという2023年、この記念すべき年に皆さんと一緒にこの盛岡でお会いできていろんな交流ができたということを大変うれしく思っています。

こういう閉会式のスピーチ、これは徳島の中野義雄先生がとってもお上手で、非常に的確なご批評をされておりましたが、役員を辞められてもうお話は聞けないのかなと思っていましたら、昨日の懇親会でやはりあの締めめの挨拶に中野節が出まして、やっぱり大したもんだなと思って聞いていました。実は私の小学校の時に担任の先生が中野忠八という先生でした。名前は違いますが中

野先生の教え子ということで、私もこれからおしゃべりを勉強したいなと言うふうに思っております。

いずれともかく、この2日間、私達、岩手県鍼灸マッサージ師会全力を挙げて皆さんのおもてなしをしたつもりでございます。いろんな至らない点もあったかと思えますけれども、どうぞご了承いただきたいと思えます。そして、今度は来年徳島で皆さんとお会いしたいと思えます。幸い今日はお天気も良くなりまして、大会が家に帰るまでということで、どうぞ皆さんお気をつけてお帰りいただきたいと思えます。本当に2日間ありがとうございました。

次期開催県挨拶

徳島県師会長 高島弘和

徳島県師会の高島です。昨日の懇親会でもご案内させていただきましたが、来年は徳島で開催いたします。みなさんどうぞ、今日いらっしゃる方ももちろんですけど、来ていない方にもお声掛けいただきまして、みんなと徳島でお会いできたらと思っております。

来年、徳島にどうぞお越しくださいよろしくお願ひします。

閉会式 閉会の挨拶

全鍼師会会長代行 長嶺芳文

皆さん、本当に2日間お疲れ様でございました。盛岡で祝って(岩手)、来年は徳島、来年来ていただくとますます得しま(徳島)すよということで、まあそういう話もございますけど。

昨日、懇親会で来賓の先生方にお酌しに行きまして、その時に全鍼は本当に明るくて楽しいねっという言葉をいただきました。やはり楽しいとやっぱり人って集まるんですね。明るくていい会、ほかの会が悪いと言ってるわけじゃないんですけれど。昨日、往田先生も人の悪口を言わなかったので非常に明るくて楽しかったなと思えます。

昨日、フェムテックのお話をいただきまして、それこそ今後この全鍼はどこに向かっていくのかなというところが、昨日、だいぶ示されてきたのかなというふうに思っております。今日の最後の無資格の話でも、経済産業省のヘルスケアの課長さん、実は健康経営の面で全鍼の方に来ていただいてご講演いただいたことがあるんです。これをきっかけに経産省と厚労省と一緒にこの壇上に上がっていただいてお話をさせていただくような機会があったら面白いかなとちょっと思えます。

全鍼としては、やはり皆さんのことも大切ですし国民の方を見て進んでいくような会にして行きたいなと思っております。今後も皆様のお力がないとこの会は成り立っていきませんので、今後ますます皆様のご協力をいただければと思えます。

また来年全国大会でお会いできたらと思えますので、またよろしくお願ひいたします。

東洋療法推進大会 in 岩手 実行委員参加報告

岩手県師会副会長 佐藤 茂

令和5年10月15日、16日に東洋療法推進大会がアートホテル盛岡にて開催されました。岩手県師会が開催県でもあり、全鍼師会の大会実行委員会とともに岩手県師会からも大会運営に携わりました。

岩手からは佐々木実、佐藤明、佐藤茂、舘下正則、井口力、高橋則夫、高坂徳一、高坂法子、佐々木由美、佐々木ひで子、佐藤典子の11名が実行委員となり、大会前日に現地入り。

昨年の埼玉大会で視察してから約1年後、今年の4月には全鍼師会と会場となるアートホテル盛岡で打ち合わせの協議も行き、いよいよ本番を迎えました。

本来なら伊藤久夫会長にも出席していただくところですが、膵臓癌のため盛岡に来ることかなわず、長嶺芳文副会長が会長代行を務めることとなりました。

大会前日にて実行委員と顔合わせと予定の確認をし、居酒屋「じょ居」にて懇親会。その後は八幡町にて二次会も行われました。全鍼師会の理事からも盛岡の夜は大変好評だったようで、15日の二次会を途中で抜け出し、盛岡の街に繰り出す理事らもいたほどでした。

翌日の大会本番、岩手県師会は会場までの誘導を受け持ち、盛岡駅にて歓迎とアートホテル盛岡までの道順の案内。

一方、ホテルのロビーでは3階会場の鳳凰の間までの案内役の二手に分け、全国からの参加者の誘導を実施しました。

役目を終えた後は実行委員控室にて昼食を取り、大会も開催されマイク出しの役目を会場で待つが、この日はマイクを出す役割がほとんどなかったです。

今大会は参加者も多く会員の現地参加161名、オンライン参加92名。会員外の現地参加2名、オンライン2名。介助者、その他が53名と合計310名参加の盛大な大会となりました。

お陰で当初、500円のクーポン券の予定が千円に変更。

その影響もあってか受付の向かい側に出店していた、「らら・いわて」も非常に大盛況だった模様。保険委員長の往田和章先生の講演中にもかかわらず買い物している方が多くいたほどでした。

初日の講演やシンポジウムが終了した後に懇親会に172名もの方に参加していただきました。司会進行役に佐藤明、高橋則夫の両名が担当しアトラクションにさんさ踊りの後、司会を務めた当会の会員にして歌手である高橋則夫による「盛岡の夜」をはじめ、プロの歌をお披露目させていただきました。

この後、二次会を2階の末廣の間にて開かれ、ここでも佐藤明、高橋則夫が司会を務めカラオケ大会となり参加者の美声を聴くことができ、大盛り上がり。

大会二日目、早朝から全鍼師会によるオンライン設置から支度が始まり、昨日に引き続きシンポジウムが始まり、厚労省から影山庸平様がお越しくださり会員から質疑応答をしてくださりました。

ここでやっとマイク出しの出番が本格化。会員らからも数多くの意見など交わされ、厚労省の方でも色々私たちのために働いてもらっているようでした

そして閉会を迎え当師会、佐々木実会長と徳島県師会の高島弘和会長に登壇してもらい、大会旗を岩手から徳島へと引き継ぎ高島会長のご挨拶。当日は高島会長の誕生日だったらしくサプライズでケーキをプレゼントもあり、最後に長嶺芳文会長代行による閉会の言葉で閉めました。

その後、実行委員で集合写真と取り、撤収作業。手で見ると博物館に行かれる方もあり、その方々とは別れ3階青雲の間で1時間くらいの反省会をして佐々木実、佐藤明、佐藤茂の3名で全鍼師会の実行委員、一人ひとりにお酌とともに感謝の言葉を述べさせていただきました。

終わりのころには岩手の実行委員らの顔には疲労感がありありと見えていました。燃え尽き灰になるまではいなくても、炭火でちょろちょろと燃えてるくらいといったところでしょうか。帰宅のためのエネルギーが残る程度。

今大会は非常に好評であり成功裏に終えることができました。二次会のチケット販売にまごついたり、体調不良を起こす方もいたりしましたが、最後までやりきることができました。

これも一致協力し、昨年からの準備に怠りがなくここまでやってきたことが実を結んだ結果です。埼玉から引き継いだ岩手大会、来年もきっと徳島大会が成功することでしょう。

最後に私の好きな歴史人物、ホレーショ・ネルソン提督の最期の言葉を真似て報告を終わりにい

たします。

今大会に参加して下さった岩手を初め全国の方々と全鍼師会理事・事務局の方々に感謝します。私たちは義務を果たしました。

東洋療法推進大会 in 岩手報告

岩手県師会学術部長 佐藤 明

10月15日から16日にかけて、東洋療法推進大会 in 岩手は「アートホテル盛岡」において開催されました。参加者は、会場参加者約215名、zoom参加者約100名、2日間でのべ630名を超えるという盛大な大会となりました。岩手県師会からは現地参加会員27名、介助者7名、zoom参加会員4名の合計38名でした。

全鍼師会の役職員の実行委員のほかに、岩手県師会からの実行委員とボランティアは、佐々木実会長(全鍼師会役員で実行委員)、佐藤明、佐藤茂副会長、館下正則、井口力業執行理事、高橋則夫理事、佐々木ひで子、高坂徳一会員、佐々木由美、高坂法子、佐藤典子など合わせて11名でした。

11名は、大会1日目に大切な任務分担がありました。朝9時半に集合し打ち合わせをして、盛岡駅から会場への案内や誘導、あるいはホテルに到着した全国の会員の受付への誘導、そして、受付係の手伝い等の役割を担いました。外は小雨模様の肌寒い一日でしたが、会場内はコロナが明けたこともあり、北海道から沖縄まで全国から多数の会員が詰めかけ熱気に包まれました。

開会式は12時から始まりました。司会進行は、西島登貴子全鍼師会理事が務められ、長嶺芳文全鍼師会会長代行の主催者あいさつから始まり、共催団体でもある佐々木実岩手県師会長の開催地歓迎のあいさつがありました。

来賓祝辞に移り、達増拓也岩手県知事からはビデオメッセージを通してお祝いと激励の言葉をいただきました。内館茂盛岡市長においては代理出席の加藤彩子保健衛生監による祝辞が代読されました。続いて、自見はなこ参議院議員内閣府特命担当大臣及び松本吉郎日本医師会会長からはビデオメッセージによるお祝いと激励の言葉が寄せられました。

祝電披露では、武見敬三参議院議員・厚労大臣からの電文が紹介され、鈴木俊一衆議院議員・財務大臣からも祝電が届きました。その他、多数の関係諸団体の会長が壇上に並ばれる中、開会式は滞りなく終了しました。

特別講演は、関西医療大学フェムテック寄附講座特任教授の菅万希子先生を講師にお招きして「鍼灸マッサージにおけるフェムテックの展望」の演題で講演をいただきました。現代を象徴するキーワードである「フェムテック」について、菅先生の専門の社会科学の立場から、女性の健康問題に的を絞り、鍼灸マッサージのアプローチと取り組み方によるデータの集積と分析により、保健・医療・福祉の分野で社会貢献になるという切り口は、女性鍼灸師や業界人にとって新たな指針になり大変有意義で貴重な講演となりました。

シンポジウムでは、大会テーマ「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」を組織・将来ビジョンへの具体化と組織発展のための活動のあり方について、座長の尾野彰全鍼師会副会長が中心となり進行されました。これは、事前に全国にアンケートを呼び掛けていた結果をまとめたものを資料として討議が行われました。会場とオンラインとで意見交換が行われ、会員増強と組織発展に向けて真剣な議論が展開されました。

そして、いよいよ夜の部は18時からお待ちかねの懇親会へと移りました。会場設営も1時間で20台の円卓が整い、172名の出席者は続々と会場入りし、今や遅しと開会を待っていました。司会

進行は佐藤明と高橋則夫さんが担当しました。

来賓10名が着席し、佐々木実県師会長の開会の言葉があり、そして、来賓祝辞では、藤原崇衆議院議員、神崎浩之岩手県議会議員・当会顧問による祝辞をいただき、来年度開催地の徳島県師会長の高島弘和先生による乾杯の音頭で饗宴はスタートしました。

ここで司会を高橋則夫さんと交代になり、関係諸団体のトップによる来賓10名のテーブルスピーチへと続けました。ごあいさつを聞きながらも、おいしいお酒と料理、顔なじみの仲間との何年振りかの語らいなど、賑やかに歓談の聲が高まりを見せていた頃、石川英樹全鍼師会副会長・協同組合理事長から大会に出店された業者の紹介が行われました。そして、提供された商品による福引抽選会も明るく賑やかに行われ、ハンドクリームなどや安心のマークの看板が景品となり大いに盛り上がりを見せました。

再び佐藤明が進行を担当し、懇親会のメインイベントとなるアトラクションへと進み、地元盛岡さんさ踊りの「さんさ好み」という12名のグループによる演舞には、会場の参加者も大いに感激し、手拍子や拍手喝采の嵐となりました。中でも振り付けの指導によるさんさ踊りを全員で体験できたことは良き思い出に残ったことでしょう。

そして次は、プロ歌手「高橋のりお」オンステージとなりオリジナル曲を2曲歌唱していただきました。その甘い歌声によるムード歌謡の曲調に盛大な拍手が響き会場は酔いしれていました。しかし、時間の関係もありアンコールを受けることが出来なかったことが心残りでした。狩野裕治全鍼師会副会長の中締め尾野彰同副会長の閉会の言葉で楽しく盛大だった懇親会もお開きとなりました。

その後、岩手県師会主催の二次会へと会場を移し、49名の方に出席いただきました。飲み足りない方、カラオケを楽しみたい方、会話を続けたい方などが思い思いに参集していただき、約2時間は瞬間に過ぎ去りました。終了後は、盛岡の夜の静寂に溶け込んでいった方、部屋でくつろぐ方など、てんでんこに過ごされたのではないのでしょうか。

二日目は、9時半からシンポジウムがあり、「広告ガイドラインと無免許問題」というテーマで、座長は森孝太郎全鍼師会業務執行理事が進行役となり、厚労省の景山庸平氏に対して、会場とオンライン参加者から具体的な質問に回答を求める方式で行われ、広告ガイドラインの出来るだけ早い発出を期待しましたが残念ながら不発に終わりました。

この全国大会のもう一つの柱である学術臨床研究発表は、今回も大会参加者限定のオンデマンド視聴による形式になり、全国の11名の鍼灸マッサージ師の先生による研究成果をじっくり閲覧できる研修が、11月1日から1か月の期間内に動画配信されます。

その臨床発表オンデマンド動画視聴の内容を以下に記しますが詳細は割愛致します。

- (1) 東鍼連学術大会 発表者6名
- (2) 神奈川県師会第50回学術大会より「快眠・快食・快便」自然治癒力を高めるツボ療法
(湘南慶育病院 鳥海春樹氏)
- (3) 「e スポーツアスリートの身体愁訴、睡眠、気分に関するアンケート調査」(大阪 古田高征氏)
- (4) 「斜鍼法 期待される治療効果の汎用性について」(大分 梅木龍男氏)
- (5) 「産後腰痛に対する骨盤ベルト装着と鍼治療併用のランダム化比較試験第2期の取り組みについて」(大阪 岩本文子氏ほか)
- (6) 「診鍼連携で取り組んだ顔面神経麻痺の鍼通電療法を起点としての10症例」
(宮城 山田幹夫氏ほか)

今回の全国大会を共催した岩手県師会では、1年前から全国からの業友を迎え入れる準備に当たりました。参加者数も、会場参加者とzoom オンライン参加を含め2日間でのべ630名を超える規模となりました。大会テーマの「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」に沿うよ

うな、温かい人情によるおもてなしの心を表現しようと会員は活動しました。特に、佐々木会長からの「みちのく通信」は9号までメールやラインメールで全国の業友あてにお知らせを発信しました。岩手のあらゆる魅力を満載した観光物産案内と言えるもので、全国の会員に来県いただき喜んでもらいたいとの熱意が伝わり予想以上の参加者数となりました。また、出店を依頼した業者の「らら・いわて」のおみやげ品はほぼ売り切れ御免になるという形にも現れたと思います。

その結果、大会実行委員長の廣野敏明全鍼師会副会長からは、過去20回大会に関わったが、今までで一番スムーズに運営された大会であったと評価されるなど、参加者からは大変好評をいただき大きな盛り上がりと成果を上げることが出来たと思います。

これも偏に岩手県師会全会員のご協力のお陰と改めて感謝を申し上げ、第22回東洋療法推進大会 in 岩手(第4回生涯研修会)のご報告といたします。

桜井記念視覚障害者のための手でみる博物館を見学して

中渡智彦

10月15・16日に東洋療法推進大会 in 岩手が行われ、大会終了後オプションとして計画され、岩手県師会からは10名、他県から21名が参加しました。

「手で見る博物館」初代館長の桜井政太郎先生は、高校生の時に訪れた博物館で、蛇の抜け殻を触ろうとしたら、係員に怒られ、それをきっかけに盲学校の教員をする傍ら、触れることのできる物を自費で集め、自宅を改築して触れる博物館を作り、収集品は3千点にも及ぶそうです。

博物館ではグループごとに館長の川又 若菜さんから説明してもらい、ハクジラ類の中で最も大きなマッコウクジラ、ヒゲクジラの1種であるミンククジラ、人間のそれぞれ腰椎を触らせてもらいました。マッコウクジラは、標準的なオスの体長は約16～18メートル、ミンククジラは、成獣ではオスで平均体長6.9メートル、メスで7.4メートルと大きさの違いだけあり、腰椎の大きさも触って分かるくらい違いました。一方人間の腰椎はクジラから比べると、本当に小さく、思わず笑ってしまいました。またクジラ類では腰椎が大きい分、各部である棘突起や横突起などとても触りやすかったです。

次に、クジラの種類は忘れましたが、下顎骨を触りましたが、長さが2メートルぐらいもあり、いかにクジラが大きいかが分かりました。

別なグループに説明してるときは剥製などを触り、よく昔話に出てくるキツネとタヌキを触りました。足はキツネの方が長く、肉食化のキツネの歯は、タヌキよりも鋭くなっていました。

最近話題になってる熊を触り、子熊と説明されてましたが、結構大きく、襲われたらたまらないなと思いました。

スズメバチの巣は直径40センチぐらいもあり、平均で1500匹ぐらい住んでるそうで、持ってみるとすごい重さでびっくり！子どもの時11月によく蜂の巣を取ってきてもらい触りましたが、大きさが全然違いました。

帰りがけに川又さんとハンマー投げの話になり、実際ハンマーがあるので、触りました。

7.6キロの鉄球が付いた棒を持って遠心力を使って投げるそうですが、あれを80メートル近くも投げる選手にびっくり！

恥ずかしながら今までハンマー投げは、普通のハンマーを投げると思っていただけに、見えない分触ることの重要さを再認識しながら博物館を後にしました。

「みちのく通信 岩手の案内」

みちのく通信 岩手の案内第1号

岩手県師会会長 佐々木 実

全国に送信した「みちのく通信 岩手の案内」をこの下に貼り付けます。

第22回東洋療法推進大会in岩手が10月15日(日)～16日(月)、盛岡市の「アートホテル盛岡」において行われるということは既に案内が皆さんの元にも届いていると思います。そして、参加募集が始まっています。

そこで、会場となる岩手県や盛岡市の案内を少しさせていただきます。

岩手県は東北の北東部にある県で、東は太平洋・北は青森県・西は秋田県・南は宮城県に囲まれており南北160キロ・東西130キロに及ぶ広い県です。面積は四国四県に匹敵するほどで北海道に次ぐ二番目の広さを有しています。

内陸と沿岸部を遮る北上山地の東側には三陸海岸が広がり景観の素晴らしさから国立公園に指定されています。秋刀魚、鮭、ウニ、ホタテ、カキ、イカ、毛ガニ、三陸ワカメ等の海産物が有名です。

秋田県との境の奥羽山脈沿いには沢山の温泉が湧いています。国立公園十和田八幡平もこの時期紅葉の真っ盛りです。

岩手県には三つの世界遺産があります。一つは金色堂に代表される平泉、二つに明治維新の西洋式高炉跡橋野鉄鉱山、三つに縄文文化の跡御所野遺跡です。

さて、大会の行われる盛岡市は県のほぼ中央で南部藩の城下町です。北上川・雫石川・中津川と三本の大きな川に囲まれた緑豊かな街で、歌手松任谷由実が盛岡を題材に「緑の街に舞い降りて」という歌を作っています。

参加される方は新幹線で盛岡駅に下りると徒歩7分で会場のホテルに到着です。飛行機で来られる方は、岩手県には花巻空港しかありませんがそこから盛岡まではシャトルバスが走っています。ちなみに花巻空港からは札幌、名古屋、伊丹、神戸、福岡便しか飛んでおりませんのでご注意ください。(仙台空港まで来て、そこから盛岡まで新幹線というのも可能です)

盛岡のおいしい食べ物と言ったら先ほど紹介した海の幸の他に、ひつつみ、わんこそば・盛岡冷麺・じゃじゃ麺(盛岡三大麺と言います)などがあります。いずれの麺も会場近くのお店で食べることが出来ますが、中でも面白いのはわんこそば。一般に男性なら80杯、女性なら60杯は食べられると言われています。100杯食べた人にはお店から記念の盾が送られるそうです。お給仕さんが付いて3700円とか。(ちなみに私は二度挑戦しましたが57杯と54杯でした)

それと忘れてはいけないのは空気のおいしさです。都会からいらした方は空気の良さにびっくりされると思います。次回は岩手や盛岡のお土産についてお話します。(岩手のお土産屋さんには会場の前にも出店予定です)(2023年7月13日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第2号

第22回東洋療法推進大会 in 岩手、皆さんもう参加申し込みはなされましたか？視覚障害者の皆さんで参加される方々には、前もって連絡いただければ岩手県師会の会員が盛岡駅からホテルまで、ホテルから盛岡駅まで手引きいたします。また、手でみる博物館もこの機会に見学しませんか？ホテルから博物館まで、博物館から盛岡駅まで岩手県師会会員が案内いたします。是非参加してくださいね。

大会が開かれる10月中旬の盛岡の気候は、最低気温が10度前後、最高気温が20度前後とと

っても過ごしやすい時期です。最も記録によると10月29日に初雪が降ったということがありますが、最近では温暖化でそんなこともないようです。

ちなみに、盛岡は内陸ですので県庁所在地としては本州1寒い所とされています。冬ならマイナス10度くらいまで下がり(昔はマイナス15度くらい)、日中もプラスにならない真冬日が10日くらいはあります。

一方夏は20年くらい前までは真夏でも夜になると窓を閉めていないと寒いくらいでしたが、近年はクーラーなしでは暮らせなくなりました。35度を超すことも何度かあります。ただ、西や南の方よりは湿度が低いのが救いです。

雪は沿岸では降っても積もることはなく、内陸盛岡でも20センチから30センチ積もれば大騒ぎです。日本海側に比べたら大したことはありません(その代わり寒いのですが)。

そんな岩手で今最もホットなニュースはプロ野球や大リーグの話題です。大リーグエンジェルスの大谷翔平(おおたに しょうへい)は言うまでもありませんがブルージェイズの菊池雄星(きくち ゆうせい)も大活躍です。日本ではロッテの佐々木朗希(ささき ろうき)に注目が集まっています。朗希選手は父親を東日本大震災の津波で亡くすという悲しみを乗り越えて大きくなった選手です。

今は津波で大被害を受けた沿岸部も大分復興が進んできていますが著しい人口減は解消されていません。あちこちの町に津波体験館や津波の記録を紹介する館が建てられています。白砂青松で日本三名勝に数えられていた陸前高田市の高田松原。ここにあった7万本の松が津波に流されたたった1本だけ残りました。この松は「奇跡の一本松」と呼ばれ人々の希望の木となりました。

そしてもう一つ、大騒ぎになっているのが今行われている大相撲7月場所です。相撲の弱い岩手から突然変身して好成績を挙げている盛岡市出身の錦木(にしきぎ)！治療に訪れた患者さんも話題は錦木のことばかり。

「錦木はいったいどうなったんだろうね」と首をひねるご老人。「にこにこして可愛いのよ」と言うご婦人方。これで彼が優勝でもしようものなら(私は無理だと思っていますが)岩手県に盆と正月とクリスマスとハロウィンと一緒にやって来た感じになっちゃいますよ。

こうして書いてきたら、岩手のお土産品の紹介をするスペースがなくなってしまいました。次回こそ岩手のおいしいお土産品、すてきな風鈴などの南部鉄器などをご紹介いたします。

皆さん、岩手におでっくなんせー！(おいでになってください)(2023年7月18日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第3号

皆さん、岩手は明治維新以来山口県に続いて2番目に総理大臣を多く輩出している県だということをご存じでしたか？賊軍とされた南部藩(現岩手)から5人も総理大臣が出ているというのは驚きです。平民宰相原敬から始まり、戦後では現財務大臣鈴木俊一氏の父親である鈴木善幸まで5人輩出しています。

郷土の偉人と言えば、童話作家宮沢賢治、歌人石川啄木、アイヌ語研究や国語辞典で有名な金田一京助、「銭形平次捕物控」の作者野村胡堂、高橋克彦、県由来の作家として高村光太郎、「ひょっこりひょうたん島」の井上ひさし、江間章子、柚月裕子、浅田次郎、内海隆一郎等々枚挙にいとまがありません。

芸能人では長岡輝子、村上弘明、千昌夫、新沼謙治、福田こうへい、あんべ光俊、NSPらが有名どころでしょうか。

さて、岩手のお土産ですが、会場の入り口にもお店を出してもらいますが、食べ物では甘いものの好きな人ならかもめの玉子、八幡平の樹氷、石割桜、なはん、岩屋堂ようかん。南部せんべいも

ゴマ・ピーナッツ・イカなどバリエーションがあり、お茶請けや酒のつまみにはもってこいです。

ブランドとなっていますが、盛岡市郊外の小岩井農場で作ったバター飴やクッキーなどが軽くて持ち帰りに便利です。

お酒なら岩手川、わしの尾、南部美人、浜千鳥、酔仙。ビールの好きな方は盛岡の地ビールベアレンビールを是非ご賞味あれ。そしてそれらのつまみには三陸海岸で取れたワカメやコンブ、するめや貝柱などの乾物類をどうぞ！

食べ物以外では南部鉄器も有名で、風鈴は1000円から2000円程度でも買えます(一度聞いたら忘れられない良い音です)。何十万円もする鉄瓶や甕などありますが、購入してドカンと家に送り付けるといつわものはおりませんか？

他に民芸品南部古代型染のハンカチやテーブルクロスなどは人気があります。さらに私がお勧めしたいのはその辺のスーパーでも普通に売られている福田パン(会社は盛岡にある)の「餡バターパン」です。これはネットでも紹介されており、行列の出来るパンとして有名です。餡とバターの組み合わせが絶妙な味を醸し出しています。盛岡に来たら是非買って食べてみて下さい。

次回は盛岡市内や近郊の観光案内をします。それでは皆さん、盛岡におでつくなんせー！

(2023年7月24日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第4号

今回は東日本大震災の話をします。

僭越ながら私が当時岩手県師会の会報に書いた文を載せさせていただきます。

—東日本大震災を体験して—

岩手県師会会長 佐々木 実

2011年を振り返る時、何といってもまず、最初に3月11日の東日本大震災を上げずにはいられない。「未曾有・稀有・巨大・甚大・とんでもない・大変な」、どんな言葉を並べても表現仕切れない大震災が起きてしまった。体験したことのないマグニチュード9という揺れがもたらした大津波は、岩手・宮城・福島を総なめにした。死者・行方不明者合わせて2万人余。

その時、私は出張治療に向かう車の中にいた。車の蛇行で地震と気づき車を止めたが、その車が跳ねるように揺れる。道端の家々が、ガタガタともものすごい音を立て、今にも倒れて来そうだ。揺れは、3分以上は続いたと思う。沿岸から100キロ以上も離れている私の所でも震度6弱。途端に電気が止まり電話が止まった。分単位で繰り返される大きな余震。外では雪が降り出した。家に戻って棚から落ちた物を片付けてラジオをつけたら大津波の知らせ。三陸の町々は壊滅状態という。

沿岸部の会員はどうなっただろう。うまく逃げてくれただろうか…？寒さと恐怖で一夜が明ける。内陸の電気と電話は三日目に復活した。そこで私は会員の安否確認に乗り出した。携帯も含めた電話番号とメールアドレスは入会の時に提出させている。が、どうにも電話がつかない。

ネットを使ったり、放送局から呼びかけてもらったが、三日程は何も掴めなかった。やがて被害の大きかった大船渡の会員が携帯の電波の届く所まで足を運び電話をくれた。それがきっかけとなり、やがて次々と消息が分かった。結局、会員全員命だけは無事だった。が、家や治療院を流された人は7人に及んだ。他に、家の一部損壊、両親が行方不明の会員、親戚を亡くした会員多数。それらのことが十日程で把握出来た。道路も寸断され、ガソリンも手に入らない中で、それは信じられないほどの早さでの把握だった。今考えれば、会員一人一人の連絡法を執行部でしっかり確保していたことと、会員一人一人の横の繋がりがしっかりしており、情報を執行部に寄せてくれたためと思う。

安否確認が終わったら次は被災地救助である。被災地避難所での鍼灸マッサージボランティアを
とって希望者を募ったら30名を越える人数が集まった。だが、岩手県は広過ぎる。内陸部盛岡を
基点に考えても被災地の沿岸部までは片道3時間、交通費だって往復なら5千円を越える。そこで
被災した会員外全員に振込み用紙を送って義援金を求めた。全盲者のことも考えて、振込用紙に
は金額の欄だけを除いて必要事項を全て記入した。幸いガソリンや灯油不足で治療院は開店休業
状態で暇だったのだ義援金はすぐ振り込まれて来た。会員の9割を越える人から寄せられた。それ
をバックに実施したボランティアは、避難所がなくなる7月までの間に延べ70箇所まで150人余が参
加し、800人を施術することが出来た。

現地社会福祉協議会へのボランティア登録を済ませ、交通の回復を待って臨んだ初回3月27日
大船渡でのボランティアは忘れることが出来ない。一人に1個しか売らない弁当を手に、1日一往復
しかない大船渡行きのバスに乗り込んだ。安否を気遣い内陸から被災地に向かう人ばかりで沈うつ
な3時間だった。(第5号につづく)(2023年7月31日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第5号

避難所に当てられた盛(さかり)小学校では、ライフラインがすべて止まった中、反射式ストーブ
一つを多くの人たちが困っていた。床に毛布を敷き、そこでマッサージをした。2週間以上も着の身着
のままで床にごろ寝している人たちは心も体も弱わり切っていた。

「防波堤があるから大丈夫とか、ここまでは来ないと言っていた人、物を取りに家に戻った人はだ
めだったんだ。一波より二波の方がずっと大きかったんだ。それと車で逃げた人、渋滞に巻き込まれ
て、そのうち津波に追いつかれてしまったんだ」
マッサージを受けながらぽつぽつと話すおじいさん。

「ここまでは来ないって言われていた所まで津波が来たんだ。私も慌ててもっと高い所さ逃げたも
の。ゴーツ、て音したから後ろ振り返ったらすぐそばまで真っ黒い波が来てた。軽トラに乗って
いた男の人が『助けてくれえ』って言いながら流されて行った。流れて来た枝につかまりながら『い
やだ、いやだ！死にたくない！』と言って波に飲み込まれて行った若い女の人も見たよ。流されて来
た車が家さぶつかったり、家が家さぶつかったりしてあつという間に街がなくなったよ」
泣きながら訴える中年の女性。

配られた昼食は、縦15センチ・横10センチくらいの発泡スチロールの入れ物に薄くご飯が盛られ、
隅に鶏肉の卵とじが乗っているだけ。それと缶詰1個。「これでも前より良くなったよ。1日おにぎり1
個という時もあつたんだから」と笑う。

「マッサージしてもらってえども、おら2週間以上も風呂さ入ってねえから」
と遠慮するお年寄り(勿論施術してやったが)。痛々しさに胸が痛くなる。

2度目はそれから1週間後。やはり大船渡の避難所だった。社協の職員の案内で津波の爪跡を
見せてもらう。同行した私の妻は「ああっ！」と言った切り黙り込んでしまった。光景はテレビで見
るより残酷だった。全体が見渡せるからだ。海から2キロ以上も陸に入った所で船がひっくり返って
いる。つぶれた家の上に車に乗っている。残った家も傾き、ヘドロがこびりつき黒ずんでいる。つぶ
れた壁の間から海が見える。道路一つ隔てて高い方は家が残し、低い方は瓦礫となっている。市街地
だった痕跡はまったくない。電柱や立ち木もない。瓦礫は道路の部分だけは寄せられているが、あと
は当日さながらにあちこちで山を作っている。「木端微塵とはこのことね」と妻がつぶやいた。

その日は天気が良く、海は信じられないほど静かだった。(第6号に続く)
(2023年8月4日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第6号

避難所は1週間前より好転していた。発電機で電気を起こし、テレビでは甲子園の決勝の様子が映し出されていた。外ではボランティアの人たちがラーメンや焼き鳥を焼いて振舞っていた。

被災地でのボランティアは毎週日曜に行い、どの避難所でも喜ばれた。時が経つにつれ避難所に衝立やミニテントが設けられ食事も良くなって行った。が、この頃からうつ状態の人が増えて来たように感じる。

「親も流されて亡くなったし、家もないしこれから先、生きて行っても何か良いことあるんですかね」と肩をもんでいた30代の女性に話しかけられた。

「生きていること、そのものが大切なんだと思いますよ。生きていれば今日より明日、明日より明後日と良くなって行く可能性があるじゃないですか。死んだらそこで終わりですよ」

私はとっさのことにどぎまぎしながら答えた。

「そうだよ。あんたたちだって目が見えないのに、こうしてはるばる私たちを助けに来てくれているんだものね」

こっちが予想していない事柄でその場は収まってしまった。震災当初は逃げることに助かることではなかった人たちが、時が経つにつれ前途を考えるようになったのだ。

今回の大震災は私たちに様々なことを教えてくれた。どんなことをしても所詮人は大自然の力にはかなわない。かなうとしたらそれは逃げることに、互いが助け合い、横の繋がり、人と人との絆を確かめること。岩手県師会の対応として、あのよう困難な状況の中で早く会員の安否確認が出来たのも、ボランティア活動がスムーズに出来たのも、微力な一人一人が結束し大きな力となったからだと思う。恥ずかしながら今年ほど会員一人一人を大切に思ったことはないし、団結の強さも感じたことはない。

最後に全国の業友の皆さんから震災に対してお見舞いの電話やメール、そして多額の義援金を頂いたことに深く感謝申し上げペンを置くこととする。ありがとうございました。

ちょっと暗い話になってしまいましたね。あれから12年、津波に遭った沿岸部と内陸部は高速道路で繋がれ、住宅やスーパーも建てられあの日の傷跡も外見上は見られなくなりました。でも、被災者の中にはまだまだ心の整理のつかない人が沢山います。町も人口減に苦しんでいます。被災地には安定した働く場所が少ないのです。

でも、私たち人間には海は絶対必要です。海の恵みがなくては人は生きていけません。名実ともに復興を願ってやみません。

さて、今回は話を変えて盛岡や岩手県内の観光地を案内いたします。

皆さーん、盛岡へおでっくなんせーっ！（2023年8月8日メール配信）

みちのく通信 岩手の案内第7号

岩手の祭りについてお話しします。何と言っても一番大きいのが8月1日から4日まで行われる盛岡さんさ祭り。市内500メートルの中央通りを太鼓と踊りのパレードが続きます。その姿は整然としていて踊りには気品があると言う人が多いです。東洋療法推進大会の懇親会でも披露してもらうことになっていますので楽しみに！

6月の第2土曜日には「チャグチャグうまっこ」という国の無形文化財にも指定されているお祭りがあります。80頭余りの農耕馬にあでやかな衣装を着せ、チャグチャグと鳴る鈴を付けて練り歩くのです。

また、ゴールデンウィークには世界遺産平泉において義経東下りの平安絵巻が繰り広げられます。義経役には毎年若手の売れっ子俳優が選ばれ盛り上がります。

沿岸部に行くと陸前高田の山車同士をぶつけ合う「けんか七夕」、釜石の「虎舞」は勇壮な祭りです。宮古市の鮭や毛ガニ祭りはほっぺが落ちます。三陸の珍味ホヤも是非ご賞味あれ。

さて、東洋療法推進大会が行われる「アートホテル盛岡」は、盛岡駅からまっすぐ徒歩で7分ほどです。途中に開運橋という橋があり、下を東北一の大河北上川が流れています。盛岡の街に入るためには必ずこの開運橋を渡らなければなりません。

開運橋は別名「二度泣き橋」とも呼ばれています。即ち、初めて盛岡に来た人が「俺は会社から左遷されたんだろう。だって盛岡はこんな田舎町なんだもの」と橋を渡りながら涙を流がす。ところが、数年して帰社する時には「みんな親切でとても良い所だった。帰りたくない」と橋の上で二度目の涙を流す所と言われています。

会場のホテルはその橋を渡って間もなくの所にあります。ホテルの先はさらに大通り、中央通りなど盛岡の中心地へと続いています。ですから食べ物屋さん、飲み屋さんなどはよりどりみどりで。盛岡駅からはでんでんむしという市内循環バスが出ていますが、それに乗って啄木新婚の家や賢治啄木青春館、盛岡城跡公園（石垣が文化財に指定）、南部藩の歴史を伝える歴史文化館、朝ドラ「どんど晴れ」の舞台「南昌荘」などを回って見られてはいかがでしょう。裁判所前にある石割桜も見たらびっくりです。大きな岩を割って樹齢250年を超える桜の木が佇立しています。

もう一泊したいという人には車で30分、盛岡の奥座敷つなぎ温泉がお勧めです。八幡太郎義家が馬をつないだ所からきたというつなぎ温泉は湯量も豊富です。そしてその先には、日本で初の民間農場「小岩井農場」があります。岩手山の広大なすそ野を利用して牛・馬・羊が飼育され、遊べる牧場園なども設置され観光客が絶えません。

今回は盛岡を飛び出して県内の有名な観光地を紹介いたします。

では皆さん、盛岡におでっくなんせーっ！（2023年8月12日メール配信）

みちのく通信 岩手の案内第8号

この機会に岩手を旅行しようという人はレンタカーを借りて回るといいかもしれません。何しろ岩手県は広過ぎます。交通の便も悪く端から端まで行くのに電車やバスを使うと5時間くらいはかかってしまいます。

盛岡から真っ直ぐ北に30キロ、御堂観音の境内に北上川の源流地公園があり、杉の木の根元から水が湧いています。古くから岩手はこの北上川を水運として利用してきました。

そこから北に20キロ余りに世界遺産御所野遺跡があります。竪穴式住居の中にも入れますし古代米の試食も可能です。

さらに10キロ、青森県との境界に近い所に座敷童（ざしきわらし）が出ると言われる金田一温泉緑風荘があります。夜寝ている所を座敷童が走り回るとか。体験してみませんか？

盛岡から西に30キロ、八幡平の山の頂上部の沼の雪が溶けだすと竜の目の形になるという鏡沼があります。ここは「ドラゴンアイ」と呼ばれ、台湾や中国人の観光客が5月から6月になるとどっと押しかけます。手前の安比高原はパウダースノーのスキー場として有名で、スキーマーやボードのメッカとなっています。

盛岡から東に90キロ、三陸海岸の中心地宮古市です。極楽浄土のように美しいとされる浄土ヶ浜はここに 있습니다。ここから北に向かえば60キロ余りで朝どら「あまちゃん」の舞台となった久慈市、南に向かえばひょうこりひょうたん島のモデルになった島や世界遺産橋野鉄鉱山のある釜石

市、さらに南に下ると津波の被害の大きかった大船渡市や陸前高田市に達します。

盛岡から真っ直ぐ南に向かえば30キロで宮沢賢治の里花巻市です。大谷翔平や菊池雄星が学んだ花巻東高校もここに 있습니다。

さらに南に50キロほど行った所に平安時代京都に次ぐ第二の都市世界遺産平泉があります。金色堂は総てが黄金で造られた六畳ほどの建物です。中には藤原氏三代のミイラが収められています。平泉まで行ったらその先に足を伸ばして猊鼻溪の船下りや巖美溪の溪流美を味わってみませんか？

その他にもまだまだ見どころは沢山あります。10月半ば、一番気候の良い時です。どうぞ皆さん岩手に来てみませんか。

ただ一つ注意を。今年1月、ニューヨークタイムスの電子版が「今年行くべき世界の52都市」としてロンドンに続いて2番目に盛岡市を選びました。それがきっかけで盛岡は空前の観光ブームとなっています。宿泊料金も跳ね上がっています。会場のアートホテルは昨年からの予約で料金が抑えられていますので、この機会を逃さずどうぞ大会参加、その後は岩手観光をして帰ってください。

今回は最終回ということで岩手の人や岩手弁の特徴についてお話いたします。

それでは皆さん、東洋療法推進大会に盛岡までおでっくなんせーっ！！

(2023年8月21日メール配信)

みちのく通信 岩手の案内第9号

前号で書き落としましたが、盛岡から南東に50キロの所に民話とカッパの里遠野市があります。ここでは茅葺の南部曲がり屋のいろりを囲んで語り部から昔話を聞くことが出来ます。また「カッパ捕獲許可証」を貰い、カッパを捕獲すると1千万円貰えるそうです。挑戦してみませんか。

さて、皆さんは岩手の人と言ったらどんなイメージをお持ちでしょうか？私は一言で言ったら岩手人の特徴は牛に似ていると思います。口が重く、はっきりとモノを言わず、我が道を黙々と進む。でも、性格が暗いわけではない。お人好しでめったに人と喧嘩などしない。もどかしいほどにくそ真面目で一本気なのだ。

ずっと前にテレビで県民性を話題にした番組があった。駅前でリンゴをぶちまけ、どれだけの人が拾ってくれるかを測ったら岩手の人が一番多かった。岩手には親切な人が多い。

岩手弁はなまっているとか、ズーズー弁だと言われる。でも、イントネーションは極めて標準語に近い。有名なアナウンサー高橋圭三は岩手出身だが、生前「岩手弁は大阪弁のようにイントネーションに癖がないから(伊藤会長、ごめんなさい)なまりさえ直せばすぐ通用した」と語っていた。

さて、岩手に来たら皆さん何事にも言葉の最後に「こ」を付けると良い。特に小さい物、可愛い物には「こ」を付ける。リンゴっこ、椀こ、べこ(牛)の子っこ、雪っこ、娘っこ…などという具合である。

今の若い人達はほとんど方言を使わないが「なげる」という言葉は若い人たちでも使う。「ゴミなげてこい」とか「あめた(くさった)パンなんてなげてしまえ」という具合にだ。他から来た人は「ゴミをなげる」と聞くとびっくりするかもしれないが、岩手では「なげる」は「捨てる」という意味でめったやたらにそこらに投げ捨てるということではない。

お年寄りの家を訪ねて「膝っこついてないで足ながめてくなんせ」と言われて困った人もいる。こちらでは「ながめる」は「長くする」つまり「脚を伸ばして楽に座われ」という意味なのだ。

最後に、冬によく使われる言葉を紹介する。盛岡は雪は少ないが寒いということは前に書いた。それ故、夜は道路が凍って滑る。その状態を「道路がでろでろずデロデロズ」とか「デラデラズ」と表す。滑べるということの比喩だ。

これくらいにしておこう。あとは皆さん、盛岡にいらしてください。私がいくらでも岩手弁をご教授いたします。

それではこれでみちのく通信 岩手案内を終了いたします。お付き合いありがとうございました。皆さん、10月15日は盛岡におでつくなんせーっ！（2023年8月24日メール配信）

東洋療法推進大会 全国から300人参集 「あはき」の課題で意見交換

第22回東洋療法推進大会 in 岩手(全日本鍼灸マッサージ師会主催、県鍼灸マッサージ師会共催)は15、16の両日、盛岡市内のホテルを主会場に、オンラインとのハイブリッドで開かれた。約300人が参加。講演やシンポジウムを通し、鍼灸マッサージの現状や課題について意見交換した。

大会テーマは「イーハトーブの郷から広めよう！伝えよう！あはきの魅力」。あはきは、あん摩マッサージ指圧、鍼、灸の頭文字。新型コロナ禍を経て、参集型の開催は4年振り。また、東北を会場としての開催は18年振りとなった。

15日は、関西医療大フェムテック寄付講座の菅万希子特任教授が登壇。「鍼灸マッサージにおけるフェムテックの展望」の題で特別講演した。

フェムテックとは、女性特有の健康課題を解消する技術やサービスを指す言葉。講演では、フェムテック市場が拡大している一方、師会では女性会員が少ない現状を指摘。ニーズに応じた仕事作りや、女性の健康に特化した教育、認定制度の創設などを提案した。

また、施術に対する効果にエビデンス(根拠)が持てるよう、業界でのデータ集積の取り組みなどを呼びかけた。

他、全日本鍼灸マッサージ師会の往田和章保険委員長が、療養費やマイナカードに関する保険講演を実施。シンポジウムでは、健康保険の活用や、無資格者が施術をする「無免許問題」など、諸課題について意見を交わした。(盛岡タイムス紙一令和5年10月21日付記事より全文転載)

盛岡ではり・きゅう普及へ大会

第22回東洋療法推進大会(全日本鍼灸マッサージ師会主催)は15、16の両日、盛岡市内で開かれた。はり・きゅうやマッサージ指圧などの普及に向け関係者らが意見交換した。

オンラインを含む全国の約320人が参加。初日は大阪・関西医療大の菅万希子教授(医療経営)が女性特有の健康問題をテクノロジーで解決する「フェムテック」における東洋療法の有効性について講演した。

西洋医学で治らず月経や産後の不調で苦しむ女性を救うためには、はり・きゅうの「痛そう」「怖い」といったイメージを取り払う広告の見せ方が大事と強調した。講演後、参加者が「見せ方」に関する意見を交わした。

群馬県渋川市から訪れたデイサービス会社経営、狩野裕治さん(53)は「女性鍼灸師が安心して働きやすい職場づくりと、女性が女性を助ける仕組みの大事さを感じた」と理解を深めた。

(岩手日報紙一令和5年10月23日付15面盛岡県北地域版記事より全文転載)

編集後記

広報部長 松下優子

私事ですが年度途中から視力の低下が著しくなり、会報編集にも困難を生じました。佐々木会長や佐藤明副会長にはお手伝いいただきこの会報をいつも通り発行することが出来、ほっとしております。お二人に心より感謝申し上げます。

今号は、第22回東洋療法推進大会 in 岩手特集号として10月15日、16日に行われました「第22回東洋療法推進大会 in 岩手」の記録を後半に編集しました。県師会始まって以来の大きな事業でしたが、会員が力を合わせて大成功となりました。参加出来なかった人たちもこの記録を読んで少しでも大会の雰囲気を感じていただければ幸いです。

来年度は東鍼連岩手大会が花巻市で行われます。力を合わせて頑張りましょう！

奥付

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
令和5年度 会報 「東洋療法いわて」 第56号
第22回東洋療法推進大会 in 岩手特集号
令和6年5月1日発行

発行人 会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057

編集責任 広報部長 松下 優子
〒020-0667 滝沢市鶉飼向新田7番地-227
電話 019-687-2405

事務所（事務局）会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057
E-mail : ms2001@aioros.ocn.ne.jp
<http://iwateken-harikyumasikai.jimdofree.com/>

印刷 (株) 日刊岩手建設工業新聞社
〒020-0015 盛岡市本町通三丁目9番33号
電話 019-623-8201
FAX 019-623-8204

KANAKEN

痛み・美肌・疲労回復に

Biomini II

— バイオミニ II —

バイオミニ II

KE-562 価格 138,000円+消費税

(クロスII/特製) 保証番号: 226AFBZ00071000

- 定格電圧: DC5V、単三形乾電池4本、専用ACアダプタ UC83120020 (入力 AC100V)
- 定格消費電力: 0.3W
- 寸法: (高さ) 27.1mm × (幅) 223.5mm × (奥行) 124.8mm
- 重量: 290g
- 最大出力電流: 2mAms (1000回負荷時)
- 定格出力電圧: 12.6Vpp (1000回負荷時)
- 出力周波数: 0.27~333Hz
- パルス幅: 1ms~1250ms
- 出力波形: パルス波
- 出力チャンネル数: 2チャンネル
- 使用時間: 15、20、30分
- 使用環境条件: 温度 10~40℃、湿度 30~75%、気圧 700~1080hPa
- 安全装置: ゼロスタート方式、電源スイッチ、出力レベルDC/WNスイッチ
- 適合規格: JIS T2023 2011

- 付属品 (別売品)
- ① 充電端子 TRS-7000
 - ② オクトパスコード
 - ③ 別売品
 - ④ ショックアダプター (2個1組)
 - ⑤ 専用ACアダプター

4つのモードから選ぶ
簡単操作!!マイクロカレント
微弱電流

モード こり

モード 痛み

モード 美肌 (再生)

モード 疲労 (リンパドレナージュ)

- ▶ 痛めた部位をメンテナンス。
- ▶ こりや痛みはお肌の大敵。

- ▶ 傷ついた身体の修復。
- ▶ しみ・しわ・たるみ・くすみ肌を改善。

- ▶ 疲れ切った身体を回復。
- ▶ 疲れた体は美容の大敵。

痛

みの治療に新しい提案

即効深部刺激、サーノスだけのPDMウェーブ搭載



表層部位から深層部位まで刺激をコントロール。
新開発の「PDM波形」を搭載。

KANAKEN

低周波治療器

SARNOS

— サーノス —

低周波治療器

SARNOS (サーノス)

KE-548 価格 850,000円+消費税

(クロスII/特製) 保証番号: 222ALBZ00038000

- 定格電圧: AC100V
- 電源周波数: 50/60Hz
- 電源入力: 100VA
- 最大出力電圧: 130Vpp ± 20% (500回負荷時)
- 最大出力電流: 70 ± 10mAms (500回負荷時)
- 出力周波数: 1.26kHz ± 10% ~ 1.74kHz ± 10% 2.7kHz ± 10%
- 出力波形: A、B
- 出力チャンネル数: 6
- 安全装置: ゼロスタート方式・ストップスイッチ・電源ヒューズ5A
- 本体の寸法: 幅 330mm × 奥行 351mm × 高さ 226mm
- 本体の重量: 約 5.2kg
- 治療の形式: クロスI 標準
- 治療の程度: BF形波電流



- 【付属品】
- 電源コード 1本
 - アースコード 1本
 - 2P-3P変換プラグ 1個
 - 導子コード 黄緑線 2本
 - 丸形導性平導子 黄緑線 6個
 - マジックバンド 長3本 短3本
 - 添付文書 1部
 - 取扱説明書 1部

ただいまデモンストレーションを実施中です。
お気軽にお問い合わせください。

総発売元 株式会社 **カナケン**
 本社: 〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-17-39
 TEL_045-901-5471代 FAX_045-902-9262
 http://e-kenkou.jp/ E-mail info@kanaken.co.jp

大阪営業所: TEL_06-6935-3016代 FAX_06-6935-3017
 新潟営業所: TEL_025-286-0521代 FAX_025-286-8870
 福島営業所: TEL_024-961-7211代 FAX_024-961-7221
 仙台出張所: TEL_022-287-6273代 FAX_022-287-6218